

市民ホール管理運営計画市民委員会
意見集

平成24年11月

はじめに

市民ホール整備事業において、平成 24 年度は、市民ホールを芸術文化創造拠点とするための運営システム、事業計画及び市民参加のあり方等の方向性について定める「市民ホール管理運営計画」を策定します。

市民ホール管理運営計画市民委員会は、市民ホール管理運営計画の策定に向けた検討を目的として、公募による市民 41 名により、平成 24 年 6 月から事前研修としてのシンポジウム、4 回のワーキング（「市民参加」、「事業計画」、「運営」、「取りまとめ」）、KAAT 神奈川芸術劇場及び横浜市磯子区民文化センター杉田劇場の視察の計 6 回の活動を行ってまいりました。

本意見集は、市民委員会の活動の成果として、これまでの検討の中で述べられた意見を集約したものです。この意見を基に市民ホール管理運営計画専門委員会において議論が重ねられており、引き続き、市民ホール管理運営計画として取りまとめてまいります。

市民ホール管理運営計画市民委員会意見集

目 次

■市民ホール管理運営計画市民委員会経過	1
---------------------------	---

- (1) シンポジウム「文化のまちづくりを考える」の開催状況
- (2) 市民ホール管理運営計画市民委員会の開催状況

■市民ホール管理運営計画市民委員会意見	3
---------------------------	---

1 基本理念

2 事業

- (1) 基本的な考え方
- (2) 7つの基本方針と事業(基本構想・基本計画から)
- (3) 開館記念事業
- (4) 事業計画上のバリアフリー
- (5) その他

3 運営

- (1) 基本的な考え方
- (2) 施設運営
- (3) 運営組織
- (4) 利用者サービス
- (5) 運営上のバリアフリー
- (6) その他

4 市民参加

- (1) 基本的な考え方
- (2) 市民参加の活動内容
- (3) 市民参加組織のあり方

5 その他

- (1) 収支・経営
- (2) 交流・連携
- (3) 市民意見聴取、ニーズ把握
- (4) 情報公開
- (5) 制度構築

- (6) 飲食施設(カフェ)
- (7) ハード整備
- (8) バリアフリー
- (9) 課題
- (10) 市民ホール管理運営計画市民委員会の継続・発展

■市民ホール管理運営計画市民委員会の活動を振り返って 27

- (1) 考え方の変化等
- (2) 最後にひとこと
- (3) 今後の市民ホールへのかかわり

■関連資料(市民ホールかわら版) 35

■市民ホール管理運営計画市民委員会経過

(1) シンポジウム「文化のまちづくりを考える」の開催状況

① 開催目的

市民ホール管理運営計画の策定に先立ち、市民ホール整備事業の進捗状況について周知するとともに、市民委員会への参加を促すため、先進都市の文化政策の状況等を参考に市民ホールの運営を考える場としてシンポジウムを開催しました。

② 開催概要

開催日時：平成24年6月17日（日） 午後1時30分から午後5時15分まで

開催場所：小田原市役所7階 大会議室

参加者：62名

開催内容：第1部 基調講演「アートが拓く地域の未来」

第2部 パネルディスカッション「アートを通じたまちづくり」

[出席者(敬称略)]

氏 名	区 分	所 属 等
吉本 光宏	基調講演講師 ゲストパネリスト	ニッセイ基礎研究所主席研究員・芸術文化プロジェクト室長
草加 叔也	コーディネーター	空間創造研究所代表取締役・劇場コンサルタント
市来 邦比古	委員会・基本計画策定専門委員会 管理運営計画専門委員会 パネリスト	世田谷パブリックシアター前技術部長
伊藤 由貴子		神奈川県立音楽堂館長
勝又 英明		東京都市大学教授（建築学）
桑谷 哲男		座・高円寺館長
桧森 隆一		嘉悦大学副学長（文化政策・アートマネジメント）
三ツ山 一志		横浜市民ギャラリーあざみ野館長兼横浜市民ギャラリー館長

* 区分ごとに五十音順で表示

(2) 市民ホール管理運営計画市民委員会の開催状況

① 市民ホール管理運営計画市民委員会 第1回会議

開催日時：平成24年7月22日（日） 午前10時から午後0時45分まで

開催場所：小田原市役所7階 大会議室

参加者：市民委員31名、一般傍聴者2名

テーマ：「市民参加 ～みんなでつくる、みんなのホール～」

[専門委員参加者(敬称略)]

氏 名	専門分野	所 属 等
三ツ山 一志	展示ギャラリー 管理運営	横浜市民ギャラリーあざみ野館長兼横浜市民ギャラリー館長 ／横浜市芸術文化振興財団

② 市民ホール管理運営計画市民委員会 第2回会議

開催日時：平成24年8月5日（日） 午前10時から午後1時まで

開催場所：小田原市役所7階 大会議室

参加者：市民委員26名、一般傍聴者3名

テーマ：「事業計画 ～市民ホールでやってほしいこと、やってみたいこと～」

[専門委員参加者(敬称略)]

氏 名	専門分野	所 属 等
市来 邦比古	舞台技術	世田谷パブリックシアター前技術部長／せたがや文化財団
桑谷 哲男	ホール管理運営	座・高円寺館長／NPO 法人劇場創造ネットワーク

③ 先進事例視察

開催日時：平成24年8月24日（金） 午前8時30分から午後5時50分まで（移動含む）

視 察 先：KAAT 神奈川芸術劇場

横浜市磯子区民文化センター杉田劇場

参加者：10名

内 容：施設内視察、質疑応答

④ 市民ホール管理運営計画市民委員会 第3回会議

開催日時：平成24年9月9日（日） 午前10時から午後0時45分まで

開催場所：小田原市役所7階 大会議室

参加者：市民委員31名、障がい者の団体の方々4名、一般傍聴者3名

* 施設の運営面について様々な視点から検討を行うため、障がい者の団体の方々が参加。

テーマ：「運営 ～自分たちでルールを考えよう！～」

[専門委員参加者(敬称略)]

氏 名	専門分野	所 属 等
伊藤 由貴子	音楽ホール 管理運営	神奈川県立音楽堂館長／神奈川芸術文化財団
勝又 英明	学識経験者	東京都市大学教授（建築学）

⑤ 市民ホール管理運営計画市民委員会 第4回会議

開催日時：平成24年10月21日（日） 午前10時から午後0時40分まで

開催場所：小田原市役所7階 大会議室

参加者：市民委員27名、一般傍聴者1名

テーマ：「取りまとめ ～これまでのまとめと、これからのこと～」

[専門委員参加者(敬称略)]

氏 名	専門分野	所 属 等
桧森 隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長（文化政策・アートマネジメント）

■市民ホール管理運営計画市民委員会意見

1 基本理念

- ・ビジョン・市民参加・事業・運営の一貫性の確保
- ・市民の憧れ、目標となるような施設
- ・西湘（箱根）全体の中での位置付けを整理して、その中での小田原市民ホールの差別化
- ・大きさではなく質を求めるホールへ
- ・身近に市民が楽しめる“場”の提供
- ・どこにも負けないバリアフリーの施設
- ・文化芸術の魅力を伝える、広げる工夫を重ねる！

2 事業

(1) 基本的な考え方

- ・美術系・展示系の不足を事業（ソフト）で解決
- ・劇場・音楽堂事業に偏らないように
- ・せっかくなので、わくわくできる魅力的なコンテンツを発信できるか？
そのためには何をどうする…？
- ・自主事業と貸館事業の割り振りを固定化せず、それを決める方法をルール化
- ・小田原でも都内並にお金を取れる魅力的なホールが欲しい

(2) 7つの基本方針と事業（基本構想・基本計画から）

- ①そだてる＜育成普及＞～地域文化の足腰を強くする～：育成事業
- ②たのしむ＜質の高い催し＞～創造性を刺激する～：鑑賞事業
- ③つくる＜市民参加＞～創造の輪を拓ける～：参加事業
- ④つたえる＜地域特性の発信＞～小田原の魅力をつたえる～：地域発信事業
- ⑤出会う＜交流促進＞～共感するよろこび～：交流事業
- ⑥にぎわう＜にぎわい創出＞～催し物がなくても立ち寄れる～：にぎわい創出事業
- ⑦ひろげる＜利用促進＞～稼働率の高い施設～：施設提供事業

① そだてる＜育成普及＞～地域文化の足腰を強くする～：育成事業

【子どもたちの芸術文化への関心を高める事業】

- ・子どもたちが本物を鑑賞できる事業
- ・子ども対象ワークショップ（造形、色彩、伝統芸能、オペラ、ミュージカル）
- ・音楽教室（無料）
- ・マナーを教えつつホールは楽しい場所と認識させる
- ・子ども対象のイベント（長期的に養成）
- ・小中学生への美術教育（授業の一貫として見学会）

- ・地域の小中高等学校との連携（出張教室）

【市民が芸術文化の魅力に触れるきっかけ体験事業】

- ・ワークショップ（映像なども含め多彩な分野）

【小田原ゆかりの事業】

- ・小田原著名人の学生対象ワークセミナー
- ・二宮尊徳の教訓を継承した学習の催し

【舞台芸術を支える職能を学び、目指すための事業】

- ・人材の育成（文化活動を行う人・団体をコーディネートする人材、ファシリテーター、趣味コース、文化をささえる人材（専門家、市民））
- ・プロ育成講座（学校、育てるコース、ライセンス制度）
- ・アートマネジメント講座の常時開催
- ・文化サポーターの育成と増員（若者）
- ・ボランティア育成
- ・小田原芸術大学の創設
- ・舞台技術テキストの発行
- ・小田原クールリスナー講座（評論の講座）
- ・ホールの技術者養成を今から始める

【アーティストの育成】

- ・常設美術学校
- ・練習場所（ホール以外に小学校など）
- ・市民が使いやすいシステム
- ・ミュージックカレッジ、音楽リスナー講座、舞台技術カレッジ

【若者・学生】

- ・学校の部活動からの参加（ダンス部、演劇部）
- ・大学生のボランティア（単位の対象とする）
- ・講義、ワークショップを大学、高校の単位とする
- ・オープン5年後に高校演劇全国大会を小田原に招致する。（それまではレベルアップのため定期的にワークショップ→高校生が演劇を好きになる→大人になって劇団をつくる→小田原の演劇人口が増える→全国の高校生を集めてまちのPR、まちづくりに貢献）

② たのしむく質の高い催し>～創造性を刺激する～：鑑賞事業

【優れた芸術文化を鑑賞する事業】

- ・兄弟館での巡回公演・巡回展

【小田原ゆかりの鑑賞事業】

- ・小田原ゆかりのアーティスト・文化人（地元演奏家、大藤信郎、川崎、尾崎、首藤、北原白秋）

- ・小田原ならではのコンサート（御幸の浜ビーチコンサート、自然素材だけのコンサート・アート）
- ・小田原出身者の事業（藍坊主の凱旋ライブ）
- ・県知事と共催で名曲 50～100 選（地元文化の発展）

【子ども対象事業】

- ・子どもたちが本物を鑑賞できる事業
- ・楽器を楽しむ子ども向けの音楽会
- ・音楽、演劇の鑑賞の仕方を学ぶワークショップ
- ・子ども向けアウトリーチ
- ・定期的な子どもたちのコンサート
- ・身近なものを使って子どものアートづくり

【フェスティバル】

- ・地元のプロの音楽家達による音楽祭

【伝統芸能】

- ・定期的な寄席
- ・歌舞伎（曾我物）

【映画】

- ・定期的な上映
- ・シネマトーク的展開
- ・天幕上映会
- ・テーマを設定した上映会

【野外等利用】

- ・前庭での野外コンサート

③ つくるく市民参加＞～創造の輪を拓げる～：参加事業

【市民自らが参加し、体験する舞台芸術創造事業】

- ・企業対抗アートフェスティバル
- ・美術のワークショップ（実制作の場、ミニ体験）
- ・プロのオケ・ソロ＋市民合唱団によるオペラ
- ・市民参加による台本づくり

【市民が文化や芸術に触れるきっかけ事業】

- ・バックステージツアー
- ・小田原ゆかりの事業（小田原囃子等おひろめ会）
- ・若い人が自分もやってみたいと思う気持ちになれるような鑑賞事業

【市民が文化や芸術の運営に参加・参画する事業】

- ・市民ボランティア（館内案内など）
- ・各種会費制友の会（市民会館・演ずる側・受ける側）

- ・友の会からの運営サポート

【子ども対象】

- ・身近なものを使って子どものアート
- ・定期的な子どもたちのコンサート
- ・全市、近市の小学校・中学校を一同にした文化祭
- ・小田原中学合同音楽祭

【障がい者の参加】

- ・車椅子の方が参加できるイベント
- ・読み聞かせを録音しバリアフリー書籍・電子書籍化

【その他の参加事業】

- ・コンセプトual写生コンテスト
- ・杉本博司
- ・参加者のモチベーションを高めるコンクール（ガーデニングコンクール等）

④ つたえるく地域特性の発信＞～小田原の魅力をつたえる～：地域発信事業

【小田原を題材にした事業】

- ・北原白秋、二宮尊徳など地元ゆかりの人物を題材とした事業（展示会など）
- ・小田原のニューブランド創造ワークショップ、商品化
- ・戦争体験談アーカイブ映像
- ・町や商店のCMづくり

【地域の“宝” 発見事業】

- ・伝統芸能の公演や継承活動（相模人形芝居下中座、民俗芸能、千人太鼓）
- ・町内に関心をもたせる
- ・我が町内のお宝さがし
- ・小田原各地区のアピールウォーク
- ・湯河原や箱根を含めた地元ゆかりの事業
- ・小田原文学読み聞かせ

【小田原の文化を蓄積し、発信する事業】

- ・ホームページ、情報誌、広報紙
- ・小田原文学堂（シナリオ化、映像化、コンテンツツーリズム）
- ・ホールの中に芸術文化発信のスタジオ
- ・ギフトショー（ビックサイト）で小田原ブランドを発信
- ・小田原美術誌の発行
- ・ホール美術展の地域公民館への巡回
- ・ペンクラブ、文学団体の協力による「おだわらものがたり」創発
- ・小田原の文化的アーカイブ（ライブラリースペース）
- ・小田原城の歴史と文化を紹介するイベント（小田原市全体のイメージアップ）
- ・西湘地域全体での「まつり」（あしがらアートフェスティバル）

- ・ 広く地域の人々を引き寄せるコンテンツの構築・発信
- ・ 史跡で「歴史に向き合う」野外展示会（ビエンナーレ）
- ・ 小田原城大外郭（小学校の遠足、模型づくり）
- ・ 自宅に眠っているプログラム、パンフレット等を集めた資料室
- ・ 箱根ジオパークに関する連続講座

【小田原の特産を活かした地域ブランド発信・育成事業】

- ・ 新しい時代の小田原らしさ創造、小田原ブランド展

⑤ 出会う＜交流促進＞～共感するよろこび～：交流事業

【芸術文化による交流促進事業】

- ・ 小田原国際音楽祭

【異分野交流事業】

- ・ ジャンル横断のコラボレーション（絵画＋歌・音楽）
- ・ 市民サークルのグループ展
- ・ 笑いの効用を紹介するためのホール活用

【人と人との交流事業】

- ・ 林英哲（太鼓）盆踊り大会
- ・ 友だちが増えるイベント（子ども間交流）
- ・ 対象を絞るのではなく、大人も子どもも一緒に過ごせるワークショップや発表会
- ・ 地域の老若男女が集結し各々の特技で親睦・交流
- ・ 楽しみ・生きがいづくり
- ・ 文化フォーラム
- ・ 人を讃えることから新たな小田原文化の創造を

【小田原市を越えた広域連携事業】

- ・ 城山又は久野ミュージアム・トレインの設立

【小田原をテーマに】

- ・ 小田原在住文化人リレートーク週間
- ・ 小田原の民話・伝承遊び・わらべ歌などを舞台発表の場を使って残す
- ・ 小田原を知るきっかけづくり
- ・ 自治会対抗芸能大会（一位に市より交付金）
- ・ 小田原提携アートフェスタ、野外アート＋造園＋環境美学＋ランドスケープ

【施設間交流事業】

- ・ 全館交流フェスティバル
- ・ 市内ギャラリーの共同展
- ・ 既存施設（松永、清閑亭、文学館）との美術展ネットワーク
- ・ 各種巡回展（地方・国・県）

⑥ にぎわうくにぎわい創出>～催し物がなくても立ち寄れる～：にぎわい創出事業

【市民ホールにぎわい創出事業】

- ・アートフェス
- ・ふるさと大使のホールイベント参加

【気軽に立寄り、楽しめる事業】

- ・子どもにとって特別な場所ではないホール（例：小田原メダカをホール周辺の子ども達に育ててもらおう）
- ・子どもの遊び場・溜まり場
- ・各種フェスティバルや大会（ガンダムフェス・ジオラマ展、ジオラマワークショップ、シンポジウム、原画展、イラスト展、クイズ大会、小田原コミケ、ゆるい歴史のお祭り、ゲーム大会 コンテンツ事業、アニメ・まんが・コスプレ等若者むけのオタク文化
- ・ミュージックストリートの開催回数を増やす
- ・外部のオープンスペースでのオープンエア美術展
- ・芸術目的でなくても安価かつ気楽に利用できるスペース・席

【まちににぎわいを生み出す事業】

- ・地場産などのフリーマーケット
- ・周辺飲食店・商店街との連携（食・大道芸）
- ・アートマート、夜市
- ・アートフェス（今ある物にプラスして、空き店舗の利用や小田原以外の作家、企業、映像 etc）
- ・酒博
- ・小田原城下町ランウェイ
- ・「まつり」との連携（市内にたくさんある「まつり」を整理して、発進力ある事業にまとめる）

【仕組みづくり】

- ・まちなかつなぎの仕組み
- ・回遊ルート

⑦ ひろげる<利用促進>～稼働率の高い施設～：施設提供事業

【市民ホール利用促進事業】

- ・現行事業の新施設利用（キャンパス小田原の事業等）
- ・現行事業の分散実施（市民文化祭を春・秋に分ける）
- ・小田原の公共施設での年1回以上のイベント義務化

【利用率】

- ・施設の利用率をUPする施策

(3) 開館記念事業

- ・展示ホールにて井上三綱展（平塚美術館に協力を依頼）
- ・千人太鼓
- ・市民オペラ（オケ・ソロはプロ、合唱は市民で）
- ・ホール、お堀端通り、二の丸広場一体型の空間を楽しめる催し

(4) 事業計画上のバリアフリー

- ・車椅子の方が参加できるイベント（音楽など）
- ・手話を使った演劇や字幕上映会等のイベントをたくさんやってほしい
- ・障がい者によるイベントをたくさんやってほしい
- ・夜公演（22 時以降終演）だと介助者のサービス時間外になってしまう
- ・高齢者と障がい者が一緒にいられる演劇・歌

(5) その他

① 事業全般

【事業案】

- ・専門委員の方々が関わるイベントの出張公演
- ・ジャンルを超えた一流のアーティストを呼べる事業運営
- ・（発信できる）質の高い公演事業が必要
- ・アウトリーチ事業実施とコーディネーターの育成（市民で経験者を募る）
- ・若い世代に演奏する機会を提供する
- ・若い音楽家に「場」を与えたい
- ・歴史と文化の再発見、再発掘
- ・地域の歴史を取り込んだ事業を考える
- ・小田原に根ざしたイベント
- ・最高レベルと草の根レベル（市民）のコラボ企画
- ・演劇や映画のときに背景・衣裳等の説明が欲しい。イヤホン等で聞けるとより楽しめる。
- ・気軽に参加できる事業
- ・事業案の公募制と委員会による事業化
- ・ホール自体がアミューズメント的性格をもっと持つべき

【対象】

- ・各イベント、各事業のターゲットは？ 各主催者のマインド次第？ プロモーションをどう考えるか？ 要検討の課題ですね
- ・30～40 代が興味を持つ事業
- ・若い人を呼び込める事業が必要！
- ・小学校・保育園など、子どもたちのところへアウトリーチをして、必ずホールへ結びつける

【育成】

- ・人材育成の仕組みを持つこと
- ・市民演奏団体の質の向上をはかる企画
- ・お客さんを呼べる演劇団体、音楽団体を育てる。専門家がワークショップをやり、人材を育てることが必要。→創造系のホール
- ・若い人たちの活動を支援・指導する仕組み
- ・年に一度でも、若い人、若い力を目覚めさせる活動を

② 情報

【改善・強化】

- ・情報発信の仕方を工夫
- ・広報・PR を強化（新しい手法を）
- ・施設の利用方法やイベントなどの情報の伝達方法の改善
- ・25 年度も、学校や若いグループ（個人）向け広報の予算

【小田原駅前等】

- ・お堀端側や駅等への表示（現在は国道 1 号側のみ）
- ・ラスカのアーケードの大画面
- ・ホールの事業を駅頭で掲示

【文化関連情報の集約・発信】

- ・市のホームページに文化行事の予定を載せる
- ・西湘（含む箱根）全体のイベントの一括管理（情報告知）の機能を
- ・小田原の文化活動の全てを集約した情報発信基地（情報センター、アーカイブ、ライブラリー機能）

【刊行物】

- ・ホールのフリーペーパーの発刊
- ・専門広報誌の発行
- ・小田原文化ハンドブック（市民文化のデータベース）

3 運営

(1) 基本的な考え方

- ・原則のルールはできるだけ具体的に決める。例外運用については委員会を設けて審議（自由裁量が多すぎると混乱する）
- ・特例・例外を考える検討組織が必要
- ・スタッフの利用時間は終日
- ・フレキシブルに対応（劇場・ホールの特性をよく考えて）
- ・他の参考施設の条件を参照しつつ適切に設定
- ・既存団体と新しい団体が一緒に使えるための新しいルールづくりが必要
- ・市民がホールを使用したいと思ったときにそれが確実に実現できる仕組みづくりが必要
- ・小田原独自のシステム
- ・サービスとコストのバランスを考えた方がいい
- ・時代に応じた運営を行う！

(2) 施設運営

① 開館日、開館時間

【休館日】

- ・定期休館日をなくして利用できる日を増やす
- ・年末年始 12/29～1/3＋臨時休館
- ・休館日はあえて定めずイベントに応じて適宜

【基本開館時間】

- ・9：00～22：00／9：00～21：00／9：00～21：30
- ・創造センター機能を重視するならスタジオの利用時間には制限を設けない
- ・開館時間を複数設定できる物理的ゾーニング
- ・展示系についても21時～22時など、公演系とあわせる

【開館時間外利用】

- ・場合により延長可能な配慮／朝と夜一時間位延長、朝8時～夜10時
- ・主催者は10分前に入場したい
- ・規定時間外は追加料金（運営を考えて充分ペイする費用設定）
- ・楽屋のみの延長利用

【受付時間】

- ・開館時間と受付時間が異なる場合、受付時間を周知させる（例 8：00～20：00）

② 利用申請方法

【申請方法】

- ・電話申込
- ・直接申込

- ・インターネット申請
- ・現在の「公共施設予約システム」を利用できるようにする
- ・営業時間内に窓口へ来て申込みをする（→抽選で決定する）
- ・相談のみで受付できる体制（簡単な文書）
- ・窓口での利用申請時の駐車スペースの確保

【申請時間】

- ・本契約は直接で窓口はせめて 19：00 まで

【申請に関する情報提供】

- ・利用可能日・時間のネットによる情報提供や利用申込に対する処理対応

【利用決定方法】

- ・抽選が良いが、今の抽選方法（コンピュータや時期）を見直すべき
- ・公平に、平等に

③ 申請時期

【申請時期】

- ・大ホール：12ヶ月前
- ・小ホール：12ヶ月前／6ヶ月前
- ・創造系：4ヶ月前／6ヶ月前
- ・展示系：6ヶ月前／14ヶ月前（国際的な大規模な催しは24ヶ月前）
- ・早い者勝ちにならぬ工夫も必要
- ・空いていたら受け付けてくれるのか

【同時利用・連続利用】

- ・本番にリハや仕込みを含めて連続で押さえられる（本番込みで3日？）
- ・大ホールを押さえたら練習室も押さえられる
- ・展示系は連続利用規制なし

【キャンセル】

- ・キャンセルは何日前まで可能か
- ・キャンセル時期と料金の設定

④ 使用料金設定

【考え方】

- ・椅子の数、入場者数からの料金設定
- ・ホール、リハーサル室、スタジオ等その室にふさわしい料金
- ・年間予算を考えて運営が苦しくならない料金設定
- ・展示系は経費が相対的に少ないと思われる。公演系の基準を適用しない。
- ・現在の料金よりあまり高くないように
- ・リハーサル室は1,000円～2,000円
- ・本番以外のリハーサルなどは照明・音響などが半額

- ・一般に利用しやすい使用料
- ・入場料金によって使用料金を変える根拠はあるのか？
- ・付属機器の料金を明確に示す
- ・展示（ギャラリー）の場合、民間ギャラリーの圧迫にならないか

【利用区分】

- ・午前・午後・夜間・一日の区分
- ・時間貸し

【減免の考え方】

- ・現在の減免を継続して（減免範囲、団体をキッチリとする）。公共ホールは公金の投入は当然。いくら出せるかが利用率にはね返る。
- ・公立、私立にかかわらず学校の使用は料金の減免を考える
- ・減免規定は設けない（あまりしない）
- ・減免の対象と基準を明確にし、採算性のある運営を行う
- ・文化祭は1か月程度にして、減免措置ありとする。それ以外は利用申請も抽選、基本的に減免なしとする。
- ・原則有料。行政も同扱が原則。

【割引制度など】

- ・シーズン料金（時期による割増割安）／2月・8月は安くする／水曜は安くする
- ・一般市民の利用を広げるためにも、ランク別セット料金を設定する。Aセット、Bセット、一品追加など
- ・土・日・休日は利用が多いため割引が欲しい
- ・「友の会」向けサービス・特典（先行予約・割引）
- ・ポイント制にしてそのポイントに応じた優遇制度
- ・連続使用したら料金がちょっと安くなる
- ・使用に関するメリットのサービスを考える／初めて使う団体は割引（お試し価格）／終日使用や日数多いと割引あり
- ・若い人、グループが低廉又は無料で公演できる仕組み
- ・著名な公演を行う場合（全国公演の一つなど）は特例を認める

(3) 運営組織

① 組織・体制

【運営母体】

- ・指定管理でも直営でもやる気のあるレベルの高いところを選ぶ
- ・管理運営はNPO法人に行ってもらいたい

【人員】

- ・運営のトップにどんな人を配するか（文化芸術に通じた人を！）
- ・優秀な人材を集める！

- ・催し物に責任あるディレクターを市側で3、4名準備しておくが良い
- ・「ディレクター」「受け皿」行政が用意を！
- ・事務方と創造スタッフの権限設定
- ・団体間・組織間をつなぐコーディネーター
- ・組織に専門家だけでなく、情熱ある市民を数人入れる
- ・全て市民（個人・企業）から
- ・舞台や照明などは専門家でなければならないが、簡単なことはボランティアが手伝えな
いか
- ・ボランティアの在り方
- ・市民スタッフ募集、プロはボランティア参加
- ・人材を育てられるスタッフを早く雇用することが必要。中・長期的な戦略を持ってやらないと。

【必要な専門性】

- ・オリジナル作品を制作できるような専門スタッフ／アート系の企画ができる専門スタッフ／専門スタッフと各公演参加者の周知
- ・分野制エキスパートスタッフ
- ・部門別の市民専門運営スタッフ（ボランティアを雇用か）
- ・専門的アドバイスができるスタッフが必須／市民（利用者）へアドバイスできる人材の活用
- ・コンサートプロデュースアシスタント
- ・年間を通して利用率を上げる企画力
- ・運営スタッフ・技術スタッフには専門家を配置／舞台技術者は技術専門スタッフにプロパー＋外部委託
- ・芸術監督（音楽重視）
- ・地方でも本当の専門の方が来てほしい
- ・役所の人間は置かない

【展示】

- ・美術系学芸員を置く／年間を通して自主企画開催、美術館クラスの展示会、ワークショップ（夏休みは子ども向け）
- ・学芸員がいる松永記念館との連携が必要（松永記念館は美術館的な活用をしていく方針であるが展示スペースが狭いので、新ホールのギャラリーを活用したい）

② 市民ボランティアのあり方

- ・ボランティアの善意に頼らない対価のシステム
- ・有償にする
- ・協力に見合ったポイントを付与してチケット代に還元
- ・ボランティアとは？→無理はしない、（有形の）対価を期待しない、ただし無償の対価！（やりがい）
- ・有償のボランティアを考えなくては。「運営」である！

- ・アーティスト（有償）を支える無償ボランティア…矛盾はないのか
- ・チケットもぎり、パンフレット渡し、花束プレゼント、会場案内、受付業務、ステージサポーター等のボランティア業務
- ・レセプションニストの育成：学校での実習活動／一定期間のトレーニングなど
- ・ボランティアレセプションニストの利用条件の明確化

(4) 利用者サービス

【期待されるサービス】

- ・市の協賛をとっているイベントのチケットマージンは取らないでほしい
- ・レセプションニストの運営、スタッフとの打合せをしっかりと
- ・クロークがあると便利
- ・サービス水準は市民レベルなのでことさら高水準にしない（身の丈で）
- ・各外国語通訳ボランティアスタッフの登録
- ・入場料の割引（年少者、高齢者、障がい者）

【貸館関係】

- ・ホールを借りる際にこうしたらもっと良くなる等のアイデアが欲しい
- ・若い人が利用したくなる制度を設ける。ホール使用の枠。スタッフによる専門的な指導体制。

【企画・制作関係】

- ・チラシ・ポスター・看板作成のアドバイスが欲しい
- ・アートマネジメントワークショップの定期化
- ・何かやりたい人への各団体へのつなぎ

【情報】

- ・大ホールの入口に全館での催物の案内があると良い
- ・駅にチケットスポットを置いてほしい
- ・市・民・協会等を区別しないイベントカレンダー
- ・インフォメーションシステムの充実／催事広報システム／対外的に如何に発信し、伝播するか？（フライヤーの置き場・配布方法）

(5) 運営上のバリアフリー

【チケット購入・鑑賞】

- ・障がい者のための専用予約ホットラインが欲しい
- ・当日券では入りにくい。場所がない。
- ・席が選べない。車椅子の人は電話で予約を指示されるが、電話はつながらない。
- ・選べる環境／「こういう席の用意もあります」という案内
- ・付き添いの人の席の取扱い（席割りの配慮）

【窓口・インフォメーション】

- ・ 窓口「筆談で対応します」「手話で対応します」といった表示があると良い
- ・ 窓口の職員は手話講習会等に参加し手話を覚えてほしい（手話での対応ができない場合は筆談器を設置）
- ・ 窓口と呼出ボタンを付けてほしい
- ・ 電話問い合わせ時に言語障がい者と気付いてもらえない（酔っていると勘違いされる）
- ・ パンフレット（チラシ）などに親子席などがあるといった案内があると良い

【スタッフワーク】

- ・ 何でも気軽に聞いたり頼んだりできる体制づくり
- ・ 手話のできる人がいると良い、要約筆記があると良い
- ・ 手話は基本としてできるほうが良い
- ・ 何かあった時（災害のほか急病やトイレの用等にも）のための介助スタッフ。特別なスタッフでなく普通のスタッフが当たり前にできるように。

(6) その他

① 優先利用

- ・ 優先順位の設定（興行・アマチュア・市の事業）
- ・ 優先利用者の基準を明確に
- ・ 優先利用（先行予約）は抽選時に公表する
- ・ 芸術性の高さとは何か？ 柔軟性や優先利用の根拠は？
- ・ 市民の優先利用（料金・予約）
- ・ 先行予約は全市民のためという大義名分で抵抗できない

② 施設運営上の課題

- ・ 秋に集中している文化祭事業を見直してほしい
- ・ まず文化連盟と市で文化祭のあり方をきちんと議論してください。その後市民を入れてください。
- ・ 市民文化祭短縮すればその分枠が空く。文化祭のあり方、ホール使用料の再考。

4 市民参加

(1) 基本的な考え方

- ・継続的活動を見込める団体の底辺を広げる（次世代育成）
- ・参加機会の拡大（最初にセミナーに出なければならない等の制限を無くし、時間的に柔軟に）
- ・託児、イベント実施など、それぞれが得意分野を活かした関わり方が考えられる
- ・市民参加のきっかけとなるワークショップが必要
- ・アウトリーチで受身的なニーズにも対応（外でワークショップやレクチャースクール）
- ・サイレントマジョリティーへの普及活動
- ・市民一人一人が受身から企画参加する側へと意識を変えていく
- ・文化に興味があり、参加したい市民をいかに集めるか
- ・埋もれた人材・既に出ている人材
- ・若い方を動員する！ スカウトして参加していただく／若い人のサポートが必要
- ・非協力的な人の理解促進
- ・参加しなくては意見は通らないということをアピール

(2) 市民参加の活動内容

① 鑑賞者としての参加

【子ども】

- ・オペラ、バレエ、ミュージカル、芝居等（本物）
- ・学校・学年単位での安価な映画会や劇場会
- ・小中学校との連携
- ・子どもたちの教育カリキュラムの一環として公演

【事業の対象】

- ・年代を意識した企画
- ・料金（公演）、観たい人を増やすためのきっかけをつくる

【市民要望の聴取】

- ・市民アンケートに基づくアーティストや劇団の招聘
- ・鑑賞者のニーズを調査（ロングテールの時代、シニア・シルバー層の変化に注目）

【鑑賞組織】

- ・情報特典
- ・友の会は作るべし
- ・市民の比較的容易な参加
- ・演劇鑑賞協会のようなものをつくり、定期的に演劇がみられるようにしたい

【講座】

- ・専門家による講座
- ・舞台芸術の歴史

- ・学芸員による絵画・彫刻の鑑賞の仕方
- ・文化人講座

【展示系・美術系事業】

- ・多様なニーズ参加のため必要
- ・神奈川県展の巡回展
- ・ホール展示室の企画・運営にも参画
- ・年1、2回の質の高い美術展
- ・松永記念館の学芸員による企画

【事業案】

- ・アウトリーチ
- ・鑑賞団体への支援
- ・野外上映会
- ・バリアフリー映画の制作・上映

② 参加型事業への参加

【子ども】

- ・子どもエンタテインメント集団の育成
- ・鑑賞とワークショップを組み合わせた事業
- ・手作りアニメーションのワークショップ
- ・子どもたちの参加型事業（現在やっているものをもっと広めたい）

【大学生・高校生】

- ・周辺大学生とのコラボ（演劇、音楽等）
- ・日本大学リズム・ソサエティー・オーケストラの定期公演（年1回）
- ・学生対象のワークセミナー
- ・小中高大のクラブ・部活・サークル活動の支援（レベルの向上）
- ・イベント等のおまけを高校生等が制作

【創造事業】

- ・ジャンルを問わない市民創作コンテスト

【育成】

- ・市民学芸員（美術）の育成
- ・中学生・高校生ボランティアの育成

【対象】

- ・中堅世代の参加機会の確保（参加しにくい世代）
- ・若者による公募展

【事業案】

- ・イベント等のおまけをワークショップで制作
- ・声優講演（一般募集）

- ・サイレント映画に声をつける
- ・NHK のど自慢大会の招聘など市民参加型の音楽の祭典
- ・定期演奏会（年2回）のリハーサルに大スタジオを利用
- ・プロの実力のある人がホール主催の市民参加公演を企画（参加者は登録制）

③ 事業企画・推進役としての参加

【組織化】

- ・“自主事業”にはホール側と市民参加のしっかりとした組織を立ち上げる！ 年間の企画の作成をそれぞれ市民参加で
- ・新事業を立ち上げるメンバー組織
- ・市民等による企画をプレゼンできる、参加させる仕組みの組織

【子ども】

- ・ODAWARA わくわくプロジェクト（例：ミュージカルワークショップ、コンサート企画）
- ・子どもたちの夢をはぐくむ事業創成
- ・様々なジャンルの文化創造ワークショップ
- ・未来へのメッセージ、子どもWS、アウトリーチ
- ・「千人太鼓」プロ・アマ・市民が三位一体となって心をひとつにして叩く
- ・子どもを育成する音楽教育（例：少年少女合唱団）

【育成】

- ・製作スタッフの育成
- ・明確な立場をもった「学校（又はその類）」の付設
- ・地元のアーティスト育成

【講師としての参加】

- ・各種教室・講座の講師
- ・市民（プロ）による講座、アウトリーチなど

【機会の提供】

- ・まずは大きな事よりも小さな事から
- ・歌・ダンスなど色々な分野で市民講師がワークショップを行い、ステージに上がる体験をする場を設ける
- ・団体などに一定期間、一定空間の全面的なプロデュースの機会を与える
- ・アーティストとお客さんをつなぐ役割（中間支援）
- ・市民が企画に参加できる仕組みづくり

【事業案】

- ・カントリーミュージックの祭典&プロデュースに参加

④ 運営への参加

【サポーター】

- ・町ぐるみの文化サポーター（商店等を巻き込んでイベントを盛り上げる）

- ・文化の中間支援、ボランティアの育成
- ・公演のお手伝いをする人、文化をサポートする市民
- ・ほんとに一般市民だけの運営委員会をつくる（専門家の無償アドバイザー）
- ・運営の拠点として、若人・学校・勤め人・中高年など各層向けのプログラムをつくる
- ・参加への啓蒙
- ・今から勉強したい（ワークショップ、研修など）

【活動】

- ・「裏方」ではなくて「表方」で参加
- ・小田原文化サポーターレセプションリストとして各団体の手助け（レセ派遣、チラシ挟み込み代行、影アナ派遣など）
- ・表方の支援グループ。レセプションリスト、アーカイブ、介助 etc
- ・写真・映像での記録ボランティア、録音ボランティア、美術会場整備ボランティア
- ・宣伝や制作支援などの応援団（会員制）、アート NPO に参加
- ・ホームページなどをつくる
- ・託児
- ・耳が聞こえない人のための字幕作成（緊急時）
- ・手話などの福祉ボランティア
- ・舞台技術以外の裏方（例えば楽屋待ち、ケータリング etc）
- ・裏方スタッフに外国語ができる人材
- ・「友の会」のような組織の管理
- ・特定の催し物に協力できると思う（個別事業へのサポート）
- ・音楽祭・演劇祭等、大規模な事業の受付、案内、PR、救護、ケータリング、介助等への参加
- ・地元合唱団と外国音楽団体との交流事業のお手伝い
- ・地場産素材を使った軽食コーナー又はビュッフェの運営

【市民の育成】

- ・レセプションリスト（表方）の育成
- ・制作補助スタッフとしての参加（育成に5年以上）
- ・早い段階で市民の運営スタッフを募集して他施設で育成

⑤ 管理者としての参加

【市民による管理】

- ・前庭などの管理
- ・市民ホールを皆できれいにする日（例：清閑亭のお掃除日）
- ・ホールがオフの日でも自由に集えるスペース（市民が管理）
- ・管理運営は責任が重い

【舞台技術】

- ・舞台技術入門講座（舞台技術のライセンス）

⑥ 評価への参加

【課題抽出・改善】

- ・比較的簡単な市民参加
- ・その後に生かすことにつながる
- ・イベント後の問題点改善のためフィードバックが必要

【現状確認】

- ・ベースライン（現状）の確認
- ・市民の参加状態の確認

【関心を高める】

- ・先行する問題として、文化・芸術に関する市民の意欲・感心を高める努力

【市民による評価・評論】

- ・市民による評価（参加希望・参加実績・実現度）
- ・市民による文化評論活動（公演等の評論活動、評論誌の発行）
- ・行われた行事の評価を行う市民組織
- ・市民による評論組織

⑦ その他の参加方法

- ・審議委員として市の方針決定に参画していく
- ・オンブズマン組織は必要

(3) 市民参加組織のあり方

【運営体制】

- ・多くの市民が得意分野を活かして参画できる市民スタッフ組織
- ・部門制専門・市民委員→定期的、一般市民・学校（児童生徒）→年2回くらい（ある種の委員会）
- ・包括的な市民組織と部会制
- ・ボランティアスタッフが運営に関わる場合、徹底した避難誘導訓練が必要
- ・市民が運営等に参加するには、行政側にプロのマネージメントスタッフが必要
- ・組織運営は黒部市のコラーレ倶楽部を参考にしたい
- ・技術者として育成
- ・進化できる市民組織（市民協働の強化とともに）

【活動内容】

- ・演目（劇・音楽）の内容の解説を当日開演前にホール又は別室でレクチャーできる組織を立ち上げると、文化の普及につながるかと思う！
- ・観客と舞台側の中間に立つ、コーディネーター的な人間が中心となる市民組織を作る。他地域のイベントをもコーディネートできる人材、組織もあれば良いと思う。
- ・市民組織の中の市民間のネットワークと行政とがつながる

- ・事業評価が継続的にできる市民参加組織
- ・芸術文化の発生源として問題提言機関を位置づける

【会員制度】

- ・正会員・準会員等を法人・個人を問わず広くリーズナブルな会費で集める
- ・友の会・部会制
- ・市民ホール友の会→行政補助も考える
全体の会費＋好みのジャンルの会費→個々の総計として友の会費
- ・会員制として財政的にも事業をバックアップ

5 その他

(1) 収支・経営

- ・ホール建設費・使用料・必要経費等の問題
- ・採算の合う使用料／利用しやすい使用料
- ・経営的マインドも必要。使用してもらうのを営業する（売る）こともそれなりに行うほうがいい。
- ・ネーミングライツ
- ・市民ホールキャラによるコンテンツビジネス

(2) 交流・連携

- ・家庭裁判所少年部
- ・箱根方面（芸者さんなど）
- ・近隣の美術館との交流・連携（長期的に行えるシステムづくり）
- ・商店街とコラボ
- ・商業との結びつき
- ・既存の市民団体の横断ネットワーク交流機能

(3) 市民意見聴取、ニーズ把握

- ・現に活動している美術グループ、音楽グループにヒアリングする。公的・半公的事例だけでは半分。
- ・拠点として改めて若い人、学校、勤め人、高齢者の声を聞く計画
- ・市民ホールに集まる人の行動・経済力の分析

(4) 情報公開

- ・室・月・曜日ごとの稼働率の表示

(5) 制度構築

- ・文化活動応援補助金制度

(6) 飲食施設（カフェ）

- ・café をチャレンジショップとする（数年で独立させる）
- ・2～3年で運営者を変えるチャレンジショップとし、運営者はその後西湘地区で独立してもらう
- ・小田原の良い食材を使ったカフェやレストラン

(7) ハード整備

【ハード全般】

- ・どんなホールになるのか分からないと議論できない
- ・Hall の Hard 姿が見えていない。大変なこと。
- ・建物の内部のデザイン（音響の良さ、バリアフリー、アクセスしやすさ、トイレ etc）も重要だが、外観デザインもそれなりのクオリティは必要である

【基本設計】

- ・設計（仕様）にどこまで市民委員会、専門委員会の論議が反映される？
- ・設計仕様書は市議会に提供（公用）すべきと考えます。あまりに不勉強！
- ・制約のあるハードをソフトでカバーできるか（どう評価するか）

【ホール系機能】

- ・音響を重視したホール
- ・ライブレコーディングが可能なホール（良質の音響環境とハードの充実）

【設備・備品等】

- ・コンセントは2箇所用意
- ・人工呼吸器の設置
- ・wi-fi を飛ばしてほしい
- ・LD 対応のバリアフリー（表示など）
- ・子ども用補助便座をトイレの半数以上に設ける（若い層が来館しやすいムード）

【駐車スペース】

- ・演者と来場者の駐車スペースの区分
- ・無料又は低額で（小田原の特殊事情：駐輪場は観光客が利用して市民は使えない）
- ・利用申請時の確保

【木材の使用】

- ・大ホールの室の壁はなるべく木材を多くして
- ・東京駅が人を呼んでいるように、小田原は木を象徴的に使ったホールにすれば市民が誇れるものになる
- ・内装に木材を使ってほしい。構造物が駄目なら装飾で。小田原の木材をどこまで使えるか検討を。（農政課との調整）

(8) バリアフリー

【全般】

- ・新しいタイプの障がいに対する対応検討を
- ・市外から来る視覚障がい者も利用しやすく満足できる施設
- ・作業所等の障がい者の作品の売店（障がいに対する理解）

【座席】

- ・通路側一列を使用。BOX にすると介助者が居る所（隣の席）がない。
- ・端っこの席は車椅子から乗り移れるように（観やすい席を選べる）
- ・演奏が振動で伝わる装置がある座席

【字幕・案内等】

- ・字幕は映画会社がつけないでと要請してくる場合もある
- ・案内・連絡を表示してほしい（電光掲示板など）
- ・字幕は左右両方に、手持ちだと見づらい（聴覚）
- ・地面埋込式の装置から補助器に情報が伝わるシステムがある
- ・聴覚障がい者のためのボディソニックのような設備がある（藤沢市に参考例）
- ・聴覚障がい者に緊急時を知らせるテロップ・電光掲示板

【移動等】

- ・食堂カフェなどの入口の段差はなくしてほしい
- ・車椅子でなくとも段差は辛い／スロープの通路
- ・車椅子 25 台。高齢化社会を認めてほしい。
- ・障がい者の車が予約なしで駐車できるように！

【緊急時の対応】

- ・エレベーターやトイレに聴覚障がい者専用の常時呼出ボタンを付けてほしい
- ・救護室を設置してほしい

(9) 課題

- ・生涯学習センターや公民館との違い（法的制約）
- ・けやき（教える・学ぶ）との関連
- ・観光的な要素（小田原のツーリズム戦略の問題）
- ・ホール周辺の整備、回遊性を持たせて良いまちづくりに繋げる
- ・多数派と少数派とのバランス（データだけで割り切れない）
- ・市と使用者の負担の割合
- ・市民参加の課題（行政責任の明確化、支配人の人材確保、有能な専任の運営責任者の確保、財政のバランスシートの提示）
- ・若い人の参加を
- ・市民会館、けやき等の秋の文化祭等の利用状況を把握
- ・文化連盟の今後のあり方を一度ガチッと話し合うべき
- ・今までの話し合いを市議会議員にも報告してほしい。無関心が心配。市民と一緒に参加する姿勢が必要。
- ・市役所の仕事のペースは街に比べて遅すぎ。前案廃止後 2 年で造ってほしかった。
- ・劇場法の勉強会

(10) 市民ホール管理運営計画市民委員会の継続・発展

- ・この市民委員が発展する形で、実際の「事業・管理・運営」に市民も入った組織ができるのだろうか？
- ・この「市民委員会」は今後も続いて開かれるのであろうか？（行政にとってのメリットの問題？）
- ・市民ホールの現在の市民委員の何らかの形態の継続
- ・意見を言える場を今後も継続したい
- ・今ここに集まっているメンバーなどが今後も話し合える組織をつくろう

■市民ホール管理運営計画市民委員会の活動を振り返って

市民ホール管理運営計画市民委員会の活動を振り返ることにより、課題や今後の方向性を明確にするとともに、管理運営計画の取りまとめに反映させるため、市民委員に対しアンケート調査を行いました。（実施期間：平成 24 年 10 月 21 日～平成 24 年 11 月 5 日）

(1) 考え方の変化等

市民委員会での検討は、あなた自身にとってどのような体験でしたか。

また、市民委員会に参加される前と現在で、考え方が変化したことがありましたらご記入ください。

- ◆小田原に住んでいながら、イベントやこういう活動に一切参加する事がなかったので、いい体験ができました。自分が住む街の事を市民が自ら考えて作りあげて行くことが大切なんだと感じました。
- ◆専門委員の方々から普段聞けない生の話が伺えて良かったです。
市民委員会の各々視点の異なる意見を交わす中で、色々なものの見方を知ることができ、視野が広がりました。
- ◆多様な意見があるのですね。でもその多くはその人がどのような立場でいるかが見えてないことからでした。一つのテーマについて意見交換が互いにできなかったことは残念でした。委員会では絞られたテーマでの意見ができると思いしました。
極端にかわるわけはありませんが、他都市の動向が気になっています。今 24 都市の文化行政を華道協会を通じて知ろうとしています（特に文化祭）。
- ◆新市民ホール開館に向け！ 有意識市民の心篤き、迸る情熱のパワーに敬服すると共に、毎回の会議において、各委員のクリエイティブな思惟・勘考の討議・討論を通じて自分自身新たな啓蒙の芽が感化され、有難くも貴重な経験となりました。此の会で得た様々な知識と見識を自身の糧とし、これからも一市民オンブズマンとして様々な会に傾注してゆきたいと思う。
- ◆山本理顕氏の設計の見直しを要求してから、あまりに長い時間が経過したことに驚いています。民間の仕事の進め方と、自治体・市との違いにとまどいを感じました。遅すぎます。景気の刺激や市の活性化にも遅れが生じます。
- ◆若者の参加が少なく、いつも意見の反映が難しくなっているので、子育て世代の意見も聞きたかったが、高齢者や障がい者の意見を反映したことは素晴らしい。
- ◆多くの人の考えを聞くことができてよかった。“市民”の中に専門家がいっぱいいることを知った。市民ひとりひとりが自分の住む街を、自分で住み易い街にする努力が必要なんだと感じた。
- ◆多くの方々との意見交換で、色々と勉強させていただきました。泉のごとく出る意見に納得。しかし、市民の声（全分野）を網羅して建設にあたることは、とてもできることでは

ありません。

そこで、できる限り使い勝手の良い設計を望む訳ですが、神奈川芸術劇場の設計は納得。説明を聞いて色々な団体が工夫をして使用できる設計かと思いました。催し物によって自由に転換できる大スタジオ、中スタジオ、小スタジオなど多目的に利用できることが良いです。特に、中・小スタジオ間の可動間仕切りは良いアイディアかと思いました。

◆「良かった点」いろいろな立場からのご意見が聞けたこと。

「悪かった点」テーマがあまりに広すぎる為、議論に至らず、それぞれの委員が自分の関心のあることを言うだけに終わってしまった点。

◆いろいろな意見のある人が集まって話をするわけですので、自分の考え方と異なる人の意見が聞けたのはよかったと思う。ただ今回の管理運営計画については、なかなか難しい点が多かったと思います。今後市民ホールができたときに、今回検討したようにできるかが、わかりません。

◆市民会館という存在は 100%行政によって管理運営される所謂箱物であるという旧弊なイメージしか持っていなかったのも、海外を含めいろいろな形態で存在しているホールを知りその可能性の大きさを驚きを持って学ばせてもらった。

◆小田原市の文化政策に興味があり、文化芸術に関わる人材も豊富で、多様な考え方をどう生かすか、様々な手法を知る良い機会であり、また伝統の中から未来へ向けてどう展開するか、少しでも私の経験を生かせればとの思いから参加しました。

検討の内容は時間不足で十分とは言えませんでした。皆さん熱心に発言しておられた様子から、ホールへの熱い思いを感じました。ただ、自ら行動を起こすというより他力本願的な面も見られ、今後の市民への啓発、教育が必要ということも感じました。

◆企業内研修で似たような場面には複数回出会っているが、互いに市民という立場で会合したのは、もちろんはじめてです。委員会の進め方として、いくつかの小グループとして意見を出し合った(?)のはよいのですが、おたがいの意見について「共感」を示せるものの「異見」を示すことが憚られる雰囲気であり、「こんなにたくさんの声がある」というとりとめない結論になってしまったように思えます。

市民委員会は、市民の意見を最終的にはどこかに集約するもので、討論の過程は大切であっても、単に意見を出し合ったり傾聴したりするだけで終わるものではないと思います。従って、「市民委員会」に参加して多くの方の異なる考え方を聴いて、自分の意見がたとえ変わったとしても、その変化を個人に問うてはいけないと思います。企業研修なら企業の望ましい方向に社員の考え方を方向づけるのは当然としますが。

この委員会の討議の過程では、同じ考えを持つ方がおいであることを確認して少しは安心したこと、自分の考えが立場の異なる方々の意見のなかでの位置づけ(バランス)ができたこと、行政およびコンサルタントの方の考え(回答)を直接聞き幾つかの点で確認できたことなどの成果がありましたが、「考えが変化した」と表現するのは少々難しいと思います。

◆他の分野での市の委員会などへの参加した経験比べ合わせても、それなりの成果はあった

かと思います。

市の委員会は、多くが「貴重な意見が消えていく場」であったり、「理解力の壁」や「本質を見つける要約力不足」であったりして、なかなか本質に届かず、実行に至らない場合が少なくありません。

本委員会は、比較的事務局やコンサルの方などが努力して頂き、適切な記録要約や広報がされていたと思いますが、あらゆる意見が最大有効に活かされるには至っていなかったと思います。ただ、一般市民、市民委員会、専門委員会、行政と扇状に市民意見が集約されていく形は、治基本条例での形などと共に良い発明であり、今後も進化させて頂きたいと思います。

ただ、ひとつ残念なのは、参加市民委員などの中で、市民間で自然的な組織化が出来なかった事です。良く、行政の講座や委員会などが母体となり、自然発生的に市民グループが出来て、最終的に NPO に組織化されるような事例を知っています。今後は、そのような意図で、市民組織が出来るとな委員会や講座などを計画できればと考えます。

ただ、個人的には、多くの知己もできて、今後の活動にどこかで結びつく事と考えます。環境などの分野での活動も並列的に行ってきていますが、そのような経験からは、この委員会や文化行政なども、まだまだ分野横断的な総合には至っていないので、文化を始点として、より総合的な「まちづくり」の視点で、「小田原大計画」のような総合政策となってく事を願っています。

また、ホールに関して、どれだけの市民を巻き込めたかも、疑問の残る所で、様々な組織からの組織的意見の集約や広報などが今後の課題かと思っています。また、SNS 等での議論なども殆ど利用されず、これらの利用技術も研究課題です。

(2) 最後にひとこと

これまでの検討や活動を振り返って、言い残したことや最後に言っておきたいことなどがありましたらご記入ください。

- ◆年配の方ばかりの参加で自分達の主張が多かったため、あまり進歩のない話し合いばかりだった気がします。もっと若い人に参加してもらえるよう市が働いて欲しかった。
- ◆「小田原らしさ」を大切に、市民（志民）パワーで心に残るホール・オープニングへと進んでいきましょう！！
- ◆音響とかを含めて、あまり特化したホールであってほしくない。次代の人々が考える BOX であってほしいです。使う立場からいえば、幅広く使えることが良いと思っています。休みのないホールであってほしい。観る立場からいえば、のんびりできるその日がつくれる場であってほしい。イベントに振りまわされるようなホールはイヤですね！（人のいるホール）
- ◆毎回の会を通じて発言して参りましたが……歴史と文化の町・小田原の特性を活かし、又、小田原の持つ立地性の優位を鑑み（新幹線、東海道線、箱根鉄道、小田急線、大雄山線）、此れを最大のメリットと位置付け、セミローカル、セミアーバンの土地性を加味させ、一

地域の文化施設を対外的にも PR し、特化させ、箱物としてグローバルな公演（インターナショナル的）を誘致可能なプロジェクトを展開させてほしい。

※施設のネーミングも、旧態依然の〇〇市民ホールではなく、公募等で斬新でユニークな特徴性を持たす！

- ◆絶対に理解しづらいのは、貴重な土地を道路から 30m もテークバックしろという話です。30m も土地を残して隣の土地を購入するなんて無駄づかい。土地の形も悪くなり、設計に支障がなければ良いのですが。
- ◆これから少子化で高齢者が増え、高齢者も文化的なホールを望んでいる。しかし、障がい者の意見も反映してほしい。例えば、大人用のオムツ台やエレベーターを積極的に設置に取り組むべき。
- ◆《ボランティア、市民参加について》20 代～60 代まで男女とも仕事を持ち働く時代。働きながら、子育てしながらでも、市民ホールの運営やボランティアに参加したくなる、魅力的な組織ができることを望む。
- ◆神奈川芸術劇場の担当者は、「数年すれば古くなり、新しい設計が出てきますよ」と言われましたが、建造物だけに限らず、すべてのことに言えますね。長期的ビジョンを持つことはすべてにおいて大切ですが、20 年、30 年を見据えてもなかなか難しいですね。建設にあたり箱根細工を取り入れていただけたら good です。
新東名のサービスエリアに何件か立ち寄りしましたが、高級ホテルに行ったような素敵なトイレが設置されびっくりしました。カメラに収めてしまいました。どこの会場へ行っても、トイレは気になる設備です。
- ◆夢のある、中長期的なビジョンを描くことが必要。それに説得力があれば、文化予算も確保出来るし、市民の理解も得られる。逆にこれがないと、「ホールなんて別になくてもいいじゃん」となってしまう。目の前のこと（来年何をしようか？など）という視点だけでは、文化の種は育たない。創造系のホールを実現するには、出来るだけ早い時期でのスタッフの雇用が不可欠。ビジョンと、それを実現する体制があって、はじめて目的が達成出来る。
- ◆今の市民会館の運営についての問題点は、市民文化祭の優先予約についての意見はありましたが、その他についてはあまり検討がされなかったように感じています。
- ◆市民ホール建設のような大規模事業は、最終的には全市民に影響を及ぼすものです。私達は市民の代表として参加し、意見を述べているつもりです。したがって、この活動はもっと広報し、関心を集める必要があるでしょう。例えば、誰の目にも留まるような形（市報など）で連載する方法は取れないのでしょうか。今後の課題としてください。
- ◆旧市街だけでなく江之浦から、入生田、曾比、曾我、小竹、中村原、国府津、鴨宮等々、ぐるっとあまねく市民が関心を持ち続けるホールであることを願う。同じ小田原市の中で温度差がなくどの地区の人にも「我がホール」という存在であってほしい。
- ◆箱根という大観光地の玄関口として、文化芸術を様々な形で展開できる条件がそろってい

ます。豊富な人材を生かして、その智慧と工夫で国際的な芸術祭を催してほしいと思います。歴史のある都市の伝統を打破することはエネルギーが要りますが、“新しい小田原”を創る中心的な役割を市民ホールに期待します。直営でもなく、財団（＝直営に近い）でもなく、“新しい公共”による運営の可能性を追求するとともに、小田原評定といわれることのないよう、斬新なアイデアとスピード感のある決断で国際都市小田原を実現してほしいと思っています。

- ◆ 昨年のホール市民委員会には、事前に行われた研修会に2度とも都合がつかなかったため、委員会には参加しておりませんでした（今年の場合は途中からでも参加されている方がおいでで、ならば去年も参加しておけばよかったと思っています。）

専門委員会では、市民の誰もが検討の過程や結論を理解できるよう、報告書または答申書としてまとめていただきたいと思います。

かわら版は検討内容を網羅的に記載してあり作成の労は大変なもの（空間創造研究所が委託業務としてまとめた？）と推察いたしますが、上記のようにまとめればまとめるほど一般論になってしまっています。専門委員会で再度読み込んでいただいて、専門医委員会報告書あるいは答申書に市民委員会意見として明示していただきたいと思います。また、最終案に至る前の意見交換会では、市民意見について整理していただいて、個々に専門委員会の見解を伺えればと思います。また、市民意見のうち妥当でないものや実現困難なものも理由を付して説明していただけるとよいかと思います。

市民委員会では、ハードについて特に討議時間を設けられませんでした。個々の設備等については随所に意見が述べられてきたと思います。考え方のうえでは、ハコをつくるのではなく、機能（ソフト）を創成するものという理解はできますが、設計思想が明らかに見えるものはハードでありいったん仕様が決まり建設してしまうと、機能は自ずと拘束され後戻りができません。

市民ホールの設計（整備）の主たる目的が劇場音楽堂の整備にあってギャラリーは付帯的にしか議論されていないことは、市民委員会（立場を説明して意見を“書かせて”はいただきましたが）や専門委員会では（議事録に1回だけ展示系の議論が少ない指摘がみられましたが）、深い検討がされなかったと感じられました。

いっぽう、過日の市民委員会で、設計者選定委員会の話題に関係し「建築設計仕様は、設計者選定で決まるものではなく、選定された設計者の示す設計案を市民の前に提示し、再び市民の意見を求めて修正する手続きで進める」との見解を聴き、このまま、劇場音楽堂で固定してしまうのではないと、いったんの安堵はいたしました。

ハードに関して付け加えるならば、ギャラリーおよび準備室・備品収納庫までは記載されて（これも記載されていないと最初は誤解していました）いますが、公演系におけるスタジオ・スタッフ室・ワークショップルームなどに相当する設備（たとえば美術室・工芸室…分けるべき）などの記載がありません。コンサルの方の回答（市の見解とおっしゃっていました）では、これらは展示系と公演系と共用すればよいという考えとのことでしたが、環境・設備など共用はできません（スタジオで油絵が描けますか）。次年度のことはと思いますが、美術系各室・設備設置をしっかりと仕様に入れるよう主張したいと思います。プロにしろアマにしろ、従来の美術工芸室ではできない工房が必要です。

ビジョン懇話会は、創造拠点たるホールの運営に関わる戦略的議論もされていると思いま

すが、市民委員会の会期中には報告（情報）がなく、また議事録を読みこなすのは大変なので意見交換会の場で要点を報告していただくとよいと思います。また、市民には、懇話会としてビジョン実現（推進）に関わる「提言」を発表していただけるとよいと思います。

◆1 「市民協働」の流れにそって

自治基本条例の市民委員として、条例制定に関わりました。理想的な条例とはなりませんが、市民協働の基礎付けはなされたと考えています。条文だけでなく、制定までの議論も参照して頂き、その趣旨を、市民ホールの運営、特に市民の参画組織について活かして頂きたいと願います。

市民の力が主題となった条例ですが、ホールの運営についての市民委員会での議論でも、まだ最終的に行政任せ、専門家任せの市民意識が根強く残念な事です。プロに対抗できるような高度な市民力の形成や、プロのアマチュアの境界の消滅などが、これからの時代の趨勢と信じています。最近の草の根レベル、特に若い人の様々な企画や活動の中に、市民の力の進化が見られる事は大きな希望です。市民協働の方向性は、時代の大きな趨勢で、数十年単位では、その方向で確実に文化活動も進化して行くはずです。現在はまだまだ不足する「市民力」ですが、それを醸成する方向で、今後の運営組織を「進化していける柔軟な組織」として頂きたいと願います。

2 具体的な組織について

「進化していける柔軟な組織」の具体的な形態として、様々なニーズに応える各種部会を自由に作れるような包括的な「友の会」組織の核を初期に作っていける事を提案しておきます。

「市民文化企画委員会」「館運営委員会」「文化活動評価活動委員会」「文化団体協議会」「運営補助市民会議（レセプションист）（緑保全護持会）（広報活動委員会）」演劇部会、映画部会、現代美術会議、市民文化コーディネーター委員会、舞台技術市民学校、小田原文化学校、文化アルヒーフサポーター・・・などなど様々なアイデアや実務的必要性に敏速に対応できる組織が「自由な連携の市場」の中で形成できる、基盤としての柔軟な組織です。

3 小田原の文化活動の方向性の「偏り」について

議論が積み重ねられ、大切な事がバランス良く理念の中に取り込まれて良い計画となってきましたが、その上で一番大切なのは、大きな方向性が少しバランスから逸脱して、小田原ならではの個性的な方向に偏る事です。他都市との「差別化」を図る事が、時代での経営的生き残り戦略となるはずですが、これまでの議論でも合意には至っていません。「合唱の街」「江戸文化の街」「自然を活かす文化活動」など、いろいろ委員会でも議論はされました。自分も個人として「アコースティック」「自然に向かう美学」など提案しました。

確かに数年の議論で定まるようなものではなく、今後の市民の自由な連携市場の中での活動で、競争しながらも、そのようなものが定まっていくべく、上記組織の中に「小田原の文化を語る会」のようなものを組織して続けていく事が望ましいと思います。

4 今後の文化の進化に対応できるフレキシブルな構造体としてのホール

組織のフレキシビリティと共に、ホールの建築も様々な点で、様々な利用形態の変化や、時代の変化に対応できる構造体となるように切に願います。

(3) 今後の市民ホールへのかかわり

今後の市民ホール整備において、ご自身が参画してみたいことはありますか。
また、開館後、どのように市民ホールにかかわっていきたいかを自由にご記入ください。

- ◆運営・制作スタッフとしてホールで働かせて下さい！
- ◆「おらが街の市民ホール」との愛着をもって、自ら主体的に楽しくホール運営に（コーディネート面でも）かかわっていきたいです。
- ◆どのようなかかわりが良いかがわかりません。が、今行っている企画をどのようにまとめ、まちなかの活性とあわせることができるか、この企画もそろそろ無料で行うことが無理となることがみえてきています。行政と民間の共有の知恵による実行委員会のようなものにしなければ、できないと思います（まちなかミュゼ+Art Now）。その他、企画案は小田原らしいものを創造したいですね！
- ◆文化施設の箱物は古今東西いつの時代でも採算的には行政に頼らざるを得ないのが現実故、その狭間を埋める努力を官民一体の知恵とアイディアで永続性をもってする必要があり、それを遂行する技術とスキームは不可欠であり！ ボランティアを含め最大限の模索を駆使し、あらゆる公演に対処可能な設備を充実させてほしい。市民ホール維持管理には今後も官民一体で組織する戦略委員会設置も急務であり、是非、此の会実現に向け！ 検討して頂きたい！ 名称…市民ホール活性戦略委員会の常設を！
- ◆本当に良いホールが出来たならば、クラシックの良い演奏会を考えていましたが、私も音楽仲間も高齢化して、3年後の完成では不可能になりました。後は若年層のアシストをするだけです。
- ◆市民ホールの設置後、バリアフリーの調査に積極的に取り組み、誰でも使い易い市民ホールにしたい。5年毎に市民の意見、アンケートを求める、運営にかかわりたいと思います。
- ◆興味あるボランティア等の育成講座などを開かれれば、参加してみたい。開館後は、鑑賞者としても多く利用したい。
- ◆音響関係、今まで活動してきたレセプション業務にかかわれたらと思いますが、年齢が！ 無理でしょうか！？ 今のところ70歳までは元気で活動したいと思っています。シニアに応じた仕事は難しい点がありますよね。けやきやサポートセンターの方々をお見受けすると、退職者の方が多いように思いますが…ゴメンなさい。
- ◆是非、スタッフとして参画したいです。
- ◆オープニングに行うことの検討会のようなものに参加してみたい。
開館後は自分たちの活動をきちんと行い、市民ホールが市民にとって身近で親しみのある

存在であり続けることが出来るようにしていきたいと思っています。

- ◆ホールを使いまわしていく際には、そこに適した一定の美的環境が保持されるべきです。
このような環境整備に必要とされるデザインや美術に関心があり、スタッフとして参加してみたい。
- ◆裏方的な仕事（チケット、カフェ、託児など）に興味があります。微力ながら参画してみたいと思っています。
- ◆ホールの建設から開館、運営全般にわたり 30 余年にわたり関わってきた経験から、お役に立てることがあれば、お手伝いさせていただきます。
プロとして活躍する市民が、多数運営に携わる仕組みを構築したいと思います。
- ◆展示系（特に美術系）の拠点としての機能の充実に意を注ぐような分野で活動（主張）していきたいと考えます。明確な考えはもっていませんが、市民の視点から啓蒙的機能（企画や広報）を担う拠点スタッフとして関わりたいと思います。また、ホールは、他分野とともに美術系文化芸術の振興に視点をおいた活動をする場としても期待をしており、物理的な場にこだわらない美術分野の糾合を図るような活動などに関わりたいと思います。しかし、ホールが期待通り（程度は心得ているつもりですが）に整備されないと前提が崩れて気をそがれるかもしれません。
- ◆1 具体的な企画や実行部隊の技術要員として、お手伝いできるかと思っています。特に卓越した最新技術はありませんが、照明、音響、電気、編集、資料編纂整理、木材加工などの多少の経験で手伝いできる事があればと思っています。
- 2 何らかの市民組織をつくる時の組織化や事務手続きなどのお手伝いができるかと思っています。SNS の利用や様々な組織化に多少の経験があります。
- 3 ホールを自然を活かしたものにすれば、その植栽管理などの技術や市民組織化などの具体的事項でお手伝いできるかと思っています。
- 4 野外ステージや野外活動などと組み合わせた野外での文化活動の時の資材調達や設営や企画などお手伝いできるかと思っています。野外活動や自然ガイド、環境教育などが専門分野です。

■関連資料（市民ホールかわら版）

- (1) WS1 市民ホールかわら版(第1回「市民参加」～みんなでつくる、みんなのホール～)
- (2) WS2 市民ホールかわら版(第2回「事業計画」～市民ホールでやってほしいこと、やってみたいこと～)
- (3) WS 号外 市民ホールかわら版(先進事例視察「施設運営の現場を見てみよう！！」)
- (4) WS3 市民ホールかわら版(第3回「運営」～自分たちでルールを考えよう！～)
- (5) WS4 市民ホールかわら版(第4回「取りまとめ」)

※ 市民ホール管理運営計画市民委員会の毎回の活動記録は、「市民ホールかわら版」として取りまとめ、参加者や市民等にフィードバックするとともに、専門委員会へ報告しています。



第 1 回「市民参加」～みんなでつくる、みんなのホール～

7 月 22 日、小田原市の大会議室にて、第 1 回市民ホール管理運営計画市民委員会が行われました。第 1 回は市民委員 31 名、(女性 9 名、男性 22 名)、市の事務局スタッフ 12 名、その他の事務局スタッフ 3 名、市民ホール管理運営計画専門委員会から三ツ山委員の、合計 47 名が参加しました。昨年度に行われた市民ホール基本計画市民検討委員会から引続き、本年度は管理運営計画について、4 回にわたり市民の皆さんと検討を行います。

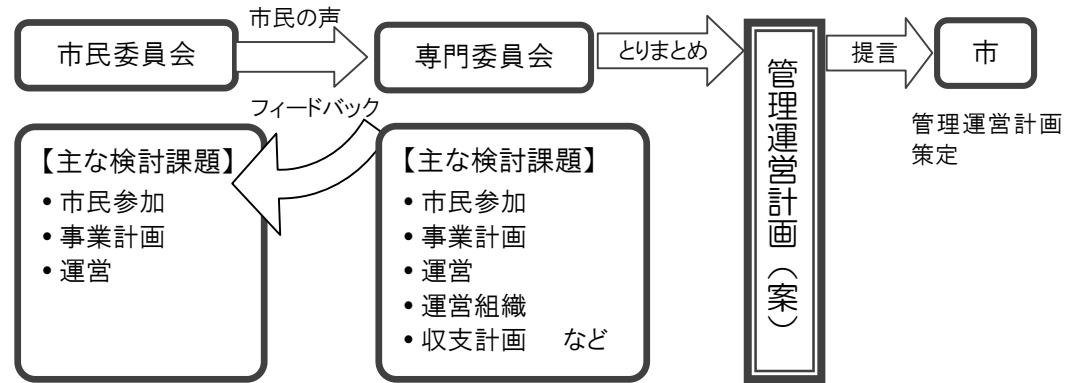
市民ホール管理運営計画市民委員会とは？

小田原市では現在、平成 28 年度の市民ホール完成に向けて、整備を進めており、これまで、平成 22 年度に基本構想、23 年度に基本計画を策定しました。

24 年度は、市民ホールを芸術文化創造の拠点とするための運営システム、事業計画及び市民参加のあり方等の方向性について定める、「市民ホール管理運営計画」を策定します。

管理運営計画の策定に当たっては、多くの市民の皆さんからご意見を伺い、管理運営計画の参考とするため、ワーキング形式の「市民委員会」を開催します。

市民委員会は、様々な立場や視点による市民の声を集約していく場とし、いただいたご意見は、文化施設や文化活動に関する専門家で構成される「専門委員会」でさらに検討を重ね、計画案として形にしていきます。



公立文化施設への市民参画について ～市民参加の形態～

全国の施設では、様々な市民参加の方法や事例が取り入れられています。

右記は全国のホールで実践されているものを中心に、市民参加の手法を示したもので、基本計画でも同様に分類しています。

小田原市の市民ホールでは、どのような市民参加を行っていくのかを具体的に考えながら検討を行いました。

鑑賞者としての参加	◎ホールの事業を多くの市民が鑑賞することで、ホールに経済的な循環が生まれ、事業の質の向上や施設の有効活動へと繋がります。	事業企画・推進役としての参加	◎市民自らが、ニーズにあった事業の企画・運営・実践を行います。 ◎養成講座や育成事業の実施など、施設から活動を仕掛け人材を育成していくことが求められます。
参加型事業への参加	◎ホールの創作する事業やワークショップに、市民が出演者やスタッフとして参加します。	施設の管理運営者としての参加	◎市民参加の発展した形として、施設運営を市民組織が自ら担う事例も全国に出てきています。
運営への参加	◎市民ボランティアとして運営に参加する事例も多くみられます。基本的には、ホールが主催する事業の運営補助として参加するという形です。 ◎舞台技術などの専門性が要求される裏方業務を市民が担う事例もあります。	評価への参加	◎市の文化政策などを評価するものから、ホール基本理念に対しての施設評価、施設の管理運営を評価するものなどがあります。 ◎専門家などによる評価と合わせて、市民によって評価を行う機会を設けていきます。

発表概要

1 班



市民の中から人材を掘り起こし市民ホールに集結させ、ホールを拠点とした活動を広げていくことが提案されました。

- ◆小田原市には、文化に対して多様な方面で様々な人材がいる。現在、埋もれている人材を掘り起こし結集させる。
- ◆小田原文化活動ハンドブックのようなものを作成し、活動が行える場所や文化団体の情報をデータベースにし、市民ホールに集結させる。
- ◆舞台技術の講座等を行い、プロとして関われる人材を育成していく。
- ◆ホール併設のカフェを「チャレンジショップ」とし、団体に数年間運営させた後に独立させる。
- ◆文化活動応援補助金制度をつくる。
- ◆お祭りなど、気づかぬうちに参加している社会的な芸術活動がある。

2 班



これから新しく活動をはじめていくにあたり、既存の歴史ある活動との関係などをつくっていく必要があることが課題としてあげられました。

- ◆鑑賞に関して、友の会のような会員制制度を導入する。
- ◆情報発信の方法が統一されていないので、一箇所(市民ホール)に集約できるようにする。ホールの完成前から計画を進める。
- ◆中高生のボランティアを育成する。
- ◆駅前に看板を設置し、情報の伝達に努める。
- ◆ホール責任者に、やる気のある人物を登用する。
- ◆市民がホールの評価を定期的に行うシステムを構築する。
- ◆今までの市民会館は利用料金が高く、制約も多かった。市民が利用しやすい施設となるように。

3 班



商店街など、まち全体や既存施設との連携を強化し、ホール内に留まらず、広い視野をもった施設展開をしていくことが求められました。

- ◆子ども達に質の高い催しものを観せられる事業を。
- ◆近隣の美術館などと提携し、定期的に質の高い美術展を行う。
- ◆子ども達が参加できるような企画を行う。
- ◆ホール休館日にも自由にスペースが利用できるようにする。(運営は市民が行う)
- ◆子ども達を元気づけ、夢を育むような事業を行う。
- ◆レセプションとして運営の補助を行う。
- ◆ホールだけでなく、商店街など近隣の店舗や施設を含め、まち全体で施設の運営にあたっていきたい。
- ◆管理運営は、知識を有する専門家に任せたい。
- ◆劇場法について理解し、あたらしい市民ホールの計画を作る必要がある。

★★★三ツ山専門委員ミニレクチャーの内容をご紹介します★★★

- ◆横浜市では、ボランティア活動を「サポーター活動」と言っています。サポーターは施設ごとに登録し、横浜市民ギャラリーあざみ野には約200名のアートサポーターがいます。イベント時だけでなく、日頃からどう有機的に活動していくかが課題となっています。
- ◆「全ての市民」と抽象的というのではなく、「子ども、障がい者、シルバー世代」等に分け、それぞれにどう働きかけていくかが、市民ホールにとってひとつのキーワードになると思います。
- ◆ホールの開館直後は華々しいですが、10年経った時に閑古鳥が鳴いているようでは、市民にとって必要な建物とは言えません。人が集まり、市民が必要としている施設となることが大切です。

- ◆ここ10～20年ほどで、「自らのやりたいことをやる」のではなく「何が必要なのか」という観点から考えられる市民の方々が増えてきたように感じています。鑑賞者としての参加も含め、市民の「学びの場」となることが重要です。

- ◆事業が終わった後に、きちんとフィードバックする場が必要です。そのためには、施設側が積極的に働きかけていく必要があります。

【三ツ山 一志 氏 プロフィール】
横浜市民ギャラリーあざみ野館長兼横浜市民ギャラリー館長
昨年度の基本計画策定から引続き、管理運営計画専門委員を務める。子どもや障がい者がアートに触れる機会の創出に取組むとともに、造形指導にも携わる。

【三ツ山氏コーディネート事業】 ◎参加者募集中◎

子ども向け美術ワークショップ 「おだわら.ゴドモ.アート」

8 月 19 日(日)小田原市民会館
「カッティングシートが生み出す
いろいろなカタチ」

9 月 1 日(土)小田原地下街
「カラーテープアート@おだちか」

ワークシートのふせん内容をご紹介します

皆さんのご意見はふせんに書込み、各班でワークシートにまとめました。
ここでは、皆さんのご意見を全てをご紹介します。

1 班

【鑑賞者としての参加】

鑑賞団体への支援。協力事業展開。／いまさらながら、展示系、美術系をどこまでソフトでカバーできるか。多様なニーズ参加のため。／ジャングル探検→団体、文化人間講座／野外上映会、アウトリーチ

【参加型事業への参加】

年2回定期演奏会で利用している。前日、本番との利用です。今後はリハーサルに大スタジオの利用を予定している。／子どもエンタテイメント集団の育成／小中学校の鑑賞、学校との連携、鑑賞とワークショップを組み合わせた事業／市民創作(ジャンルを問わず)コンテスト応募／周辺大学生とのコラボ、演劇、音楽等／三ツ山さんのおっしゃった、子ども、バリアフリー、シルバーの他に中堅世代の参加機会を確保。→ある意味参加しがたい世代。／イベント等のおまけをワークショップもしくは高校生等に製作を依頼／市民学芸員(美術)の育成／家庭裁判所少年部との連携／箱根方面との連携、芸者さんとか／子ども向けの手作りアニメーションのワークショップ／声優講演(一般募集) サイレント映画に声をつける／日本大学リズムソサエティー(オーケストラ)を定期的(1年に1回)開催／カントリーミュージックの祭典の開催&プロデュース／市民参加型の音楽の祭典(例:NHKのど自慢大会の招聘)／学生対象のワークセミナー

【運営への参加】

レセプションist(表方)の育成／裏方スタッフに外国語ができる人材を置く／地場産素材を使った軽食コーナー(ビュッフェ?)の運営／映画や緊急時の時、耳が聞こえない人のために字幕を入れてほしい。／バリアフリー上映、製作／企画…鑑賞者としての要望。告知について、国道 1 号側だけでなく、お堀端、駅等への告知／町ぐるみの文化サポーター、商店等を巻き込んでイベントを盛り上げる／専門性のある市民。「裏方」ではなくて「表方?」で参加／参加(のかたち)への啓蒙

【事業への参加】

製作スタッフの育成／(主として)団体などに一定期間、一定空間の全面的プロデュース(カタカナですが)する機会／明確な立場をもった「学校(又はその類)」の付設／まずは大きな事よりも小さな事から。ワークショップ(色々な分野で)。市民講師(うた、ダンス)が行うワークショップを行い、体験(ステージに上がる事)する場を設ける／各種「教室」講座の講師として／小田原文化ハンドブックの発行。市民文化のデータベース／プロの実力のある人に市民として参加してもらう→登録制。その人たちの参加による市民ホール主催の公演を企画し、子どもたちの教育カリキュラムの一環として公演する。

【管理への参加】

ホールのフリーペーパーの発刊／託児／付属の庭園などの市民団体による管理／清閑亭のお掃除日の様に皆できれいにする日を設ける／舞台技術入門講座→舞台技術のライセンス

【評価への参加】

市民による文化評論活動→公演等の評論活動、評論誌の発行／ベースライン(現状)の確認。観客の市民の参加状態を確かめる(調整?)／文化・芸術に関する市民の意欲、感心を高める努力が先行の問題としてあると思う。／市民(プロ)による講座、アウトリーチなどの実施

【その他の参加】

最終的に管理運営はNPO法人に行って欲しい／作業所の人(障がい者が作っているもの etc)の売店を作って欲しい。(障がい者への一般の人の理解)／市民による評価、ピフォー参加実績、アフター参加希望、実現度／高齢者と障害者が一緒にいられる演劇、歌をやって欲しい／ハードは建設してしまうとそこに制約される。ソフトでカバーできるか→どう評価するか／コンセプトを2箇所用意して欲しい／人工呼吸器の設置／大ホール、小ホールスタジオ(大中小)店プラス施設の利用率をUPする施策を考える／最高レベルと草の根レベルのコラボ企画(すなわち市民)／サイレントマジョリティーへの普及活動、伝聞／caféをチャレンジショップとして2〜3年で運営者を変える。運営者はその後西湘地区で独立してもらいたい／多数と少数とのバランス→多数(ニーズや行政の〜だけで割り切れない)／継続的活動を見込める団体の底辺を広げ、次世代育成を更に目指してほしい／アウトリーチ(この言葉はカタカナで好きではないが…)受け身的なニーズにも対応(外部でワークショップやレクチャースクール)／参加機会を時間的に柔軟に(最初にセミナーに出なければならないとかの制限を無くす。)一般論ですが…。／美術展示系が不足するのを事業(ソフト)で解決して欲しい(外で…など)／埋もれた人材に加え→既に出ている。非協力的な人材の説得(考え方をかえてもらう)／歴史と文化の再発見で再発掘→商業との結びつきを、セミナー等／wi-fi を飛ばしてほしい／専門広報誌の発行／文化活動応援補助金制度

管理運営計画市民委員会 今後のスケジュール

開催日時		場 所	テーマ(予定)
シンポジウム (6/17) * 終了			
第 1 回 * 終了	7 月 22 日(日) 10:00~12:30	市役所 7F 大会議室	オリエンテーション 市民参加
第 2 回	8 月 5 日(日) 10:00~12:30	市役所 7F 大会議室	事業計画
先進事例視察 (8 月 24 日) 神奈川芸術劇場 (KAAT) ・ 横浜市磯子区民文化センター杉田劇場			
第 3 回	9 月 9 日(日) 10:00~12:30	市役所 7F 大会議室	運営
第 4 回	10 月 21 日(日) 10:00~12:30	市役所 7F 大会議室	取りまとめ
市民委員と専門委員の意見交換会 (11 月予定)			

2 班

【鑑賞】

1年に1回とか2回、市民にアンケートをとって、こんなアーティストに来てほしい!こんな劇団のお芝居を観たい!と要望を集めて実現できたらいいなー。／「友の会」のように会費を納めて、情報特典があり事業にお金をおとす。／市民の比較的に容易な参加。鑑賞者として、会員制として財政的にもバックアップする。

【参加型事業】

中学生、高校生のボランティアを育成する→将来のため／小中高大のクラブや部活、サークル活動の支援、レベルの向上

【運営】

早い段階で市民から運営スタッフを募集し、他施設で修行して育てていく。／ホールの使用法、イベントや情報の伝達方法を考えてほしい。／ホール建設費、使用料は! ? 一般的にはらいやすく、利用しやすくしてほしいと思います。／使用料の件、必要経費等の問題。市、使用者の負担の割合、技術者／市民が運営等に参加するには、行政側にプロのマネジメントスタッフが必要。／既存団体、新しい団体が一緒に使えるための新しいルール作り(ボーダーライン)が必要。／ホールの事業を駅前で掲示できるようにして!!／小田原独自のシステムをつくる／「友の会」のような方法の管理、ホームページなどをつくる。

【管理】

指定管理でも直営でもやる気のあるレベルの高いところを選ぶ。

【評価】

市民参加の比較的に簡単な参加。評価への参加、結果を見ることになるが、その後に生かすことにつながる。／イベント後の問題点改善のため、必ずフィードバックが必要。

【情報】

情報の発信の仕方を!／市のホームページに市民会館等の行事予定をのせる。

【課題】

市民会館、けやき等の秋の文化祭等市文連利用状況を説明し、今後の話し合いに活かしたい。／市民参加の前提、・行政責任の明確化、・支配人の人材確保、・有能な専任の運営責任者の確保、・財政のバランスシートの提示(いくつかの例)

3 班

【鑑賞者としての参加】

やはり子どもたちに本物をみせたい。オペラ、バレエ、ミュージカル、芝居等／ロングテールの時代、シニア、シルバー層の変化に注目し鑑賞者のニーズを調査したい／年代を意識した企画が必要／学校、学年単位での安価な映画会や劇場会が必要／ホールを主催する公演や催し物をラスカのアーケードの大画面で流してほしい。／展示施設、質の高い美術展の開催(年1、2回)／神奈川県展の巡回展を希望。松永記念館は美術館としてはスペースが狭いので、量的に充実したものはできない。新展示室は350㎡である程度のものでできる。松永の学芸は新展示室での企画も視野に入れて考えて頂きたい。(ホール展示室の企画、運営にも参画する)／友の会は作るべし／専門家による講座、舞台芸術の歴史、絵画・彫刻の鑑賞の仕方(学芸員による)

【参加型事業への参加】

子どもたちの参加型事業やっています。一般参加もありです。もっと広めていきたい。／ジャンルを超えた一流のアーティストを呼べる事業運営。／芸術文化の発生源。問題提言機関を位置づけ。／ホールがオフの日でも自由に集えるようなスペースがあるといい。管理は市民で／プロのアーティストだけでなく、他分野のアートや、若手による公募展

【運営への参加】

今から何かやりたい。勉強(ワークショップ、研修など)したい／特定の催し事業に協力できると思う(個別事業へのサポート)／アーティストとお客さんをつなぐ役割(中間支援)が文化を広めるために必要だ。／組織運営は資料4のコラーレ倶楽部を参考にしたい／ホール周辺の整備。回遊性を持たせて良いまちづくりに繋げる。商店街とコラボ。／公演のお手伝いをする人が必要。お手伝いする人、文化をサポートする市民。／ボランティアの在り方について話し合う必要がある。／小田原文化サポーターレセプションistとして各団体への手助けをしたい。レセ派遣依頼書、チラシ挟み込み代行、影アナ派遣など活動

【事業参加・推進役としての参加】

《子ども対象》ODAWARA わくわくプロジェクト頑張ります。(例:ミュージカルワークショップ、コンサート企画、他)／「太鼓打つ子ら」未来へのメッセージ、子ども WS、アウトリーチ／「千人太鼓」①プロ、②アマ、③市民、三位一体となって心をひとつにして叩く／箱根ジオパークに対する講座を連続して開いてもらいたい(入生田の博物館では地域的に遠いため)。ジオパーク取得のために講座を聴いていますが、一般市民にどのようなものかを広く知ってもらえたらと思います。／子どもたちの夢をはぐむ事業創成

《全体》様々なジャンルの文化創造ワークショップを推進したい。／近隣の美術館との交流、連携を図る。長期的に行えるようきちんとシステムをつくる。／小田原らしい催し、企画。地元のアーティスト育成、音楽教育は子どもの育成(例えば少年少女合唱団)

【施設の管理運営】

管理運営は責任が重い位置である。このあたりの資格とは?

【その他】

劇場法の勉強会を提案したい。新ホールを計画するに当たり委員全員のレベル合わせのため。

第2回「事業計画」～市民ホールでやってほしいこと、やってみたいこと～

8月5日、小田原市の大会議室にて、第2回市民ホール管理運営計画市民委員会が行われました。第2回は市民委員26名、(女性7名、男性19名)、市の事務局スタッフ11名、その他の事務局スタッフ3名、市民ホール管理運営計画専門委員会から市来委員、桑谷委員の合計42名が参加しました。昨年度に行われた市民ホール基本計画市民検討委員会から引続き、本年度は管理運営計画について、4回にわたり市民の皆さんと検討を行います。

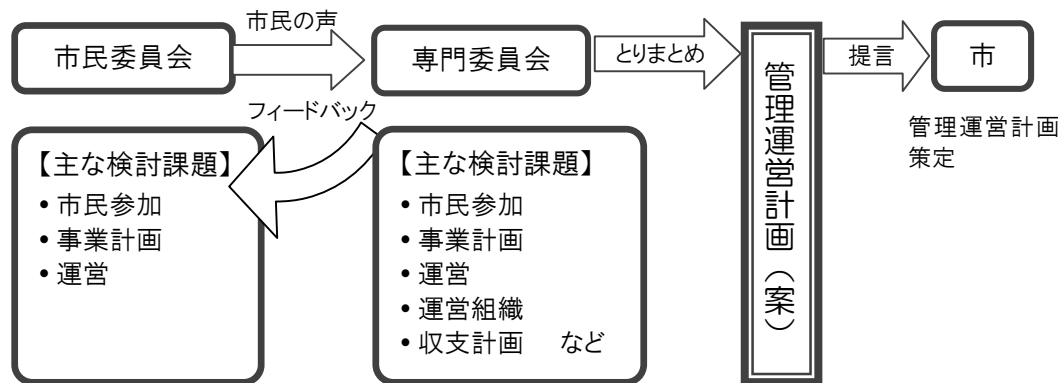
市民ホール管理運営計画市民委員会とは？

小田原市では現在、平成28年度の市民ホール完成に向けて、整備を進めており、これまで、平成22年度に基本構想、23年度に基本計画を策定しました。

24年度は、市民ホールを芸術文化創造の拠点とするための運営システム、事業計画及び市民参加のあり方等の方向性について定める、「市民ホール管理運営計画」を策定します。

管理運営計画の策定に当たっては、多くの市民の皆さんからご意見を伺い、管理運営計画の参考とするため、ワーキング形式の「市民委員会」を開催します。

市民委員会は、様々な立場や視点による市民の声を集約していく場とし、いただいたご意見は、文化施設や文化活動に関する専門家で構成される「専門委員会」でさらに検討を重ね、計画案として形にしていきます。



市民ホールでの事業について

市民ホールでは、基本構想で定められた右記の「7つの事業の基本方針」に沿って事業を展開していきます。今回は、市民ホールが行っていくべき事業について、具体的にどのようなものが考えられるかを話し合いました。

そだてる〈育成普及〉	育成事業	活動を行う芸術文化団体の支援・育成や、次代を担う世代を育成していく事業などを展開します。
たのしむ〈質の高い催し〉	鑑賞事業	多様な芸術文化の鑑賞機会を提供し、感性豊かな市民を育てていきます。
つくる〈市民参加〉	参加事業	広く市民を対象とし、市民が中心の作品創造の機会を提供します。
つたえる〈地域特性の発信〉	地域発信事業	小田原の地域資源を活かし、小田原ならではの創造活動を行っていきます。
出会う〈交流促進〉	交流事業	芸術文化を通じた交流の場を提供し、新たな文化や交流が生まれていくことを目指します。
にぎわう〈にぎわい創出〉	にぎわい創出事業	市民が気軽に集う憩いの場となり、芸術文化を通じたまちづくりの拠点となる事業を行っていきます。
ひろげる〈利用促進〉	施設提供事業	市民の活動内容や利用形態に適した運営規則を作成し、市民ホールの施設を広く貸出していきます。

発表概要

1 班



文化の拠点としての役割に重点をおき、小田原に今ある文化や活動を更に昇華させるような活動が求められました。

- ◆若い人々が自分も関わりたいと思える鑑賞事業
- ◆シネコンではない定期的な映画の上映会
- ◆小田原中学校合同音楽祭
- ◆近隣の小中学校を一同にした文化祭
- ◆造園環境美学、ガーデニングコンクールなど
- ◆歴史に関わるシンポジウム、アーカイブなど
- ◆小田原ふるさと大使の芸能人との関わり
- ◆西湖地区まで含めた情報発信の基地となる
- ◆創る人、鑑賞する人など、目的を明確にしたカレッジ、アカデミーを作る

2 班



小田原の文化資源を大切に、老若男女が交流しながら、後継者に継承していけるような事業が求められました。

- ◆これからの小田原を支えていく芽を育む情操教育
- ◆小中学校と連携して事業を行う
- ◆小学生対象の劇場マナー教室、技術塾など
- ◆地域の知恵をもったお年寄りとの交流
- ◆国際的な音楽祭の開催、国際交流を含めた交流
- ◆地域の文化を鑑賞する機会
- ◆視覚障がい者や車椅子の方が参加できるイベント
- ◆地場産業をとりあげる
- ◆まちなかや祭りと連携しての賑わい創出
- ◆既存施設や近隣ギャラリーと連携しての巡回展

3 班



ホールで完結するのではなく、まちや商店街、他の施設と親密に関わりながら事業を行っていくことが求められました。

- ◆子どもを対象としたワークショップ事業
- ◆小田原著名人ワークセミナー
- ◆小学生の音楽教室をホールに設ける
- ◆現在の活動団体が子ども向けアウトリーチを行う
- ◆地域のものとして、歌舞伎の曾我もの上演
- ◆市民ホールの兄弟館をつくり巡回公演を行う
- ◆技術ワークショップや実地制作などの体験事業
- ◆ホールのオープニングに合わせて千人太鼓
- ◆ホール、広場、お堀端と一体になった催し
- ◆大外郭を含めて小田原の歴史を学ぶウォーキング

★★★専門委員ミニレクチャーの内容をご紹介します★★★

市来委員 ～人材育成事業の必要性と効果～

- ◆事業を企画する人材を、育成事業で育てていくことが必要です。
- ◆育成事業の成果が出るには、5年、10年といった長い時間がかかります。専門家の指導を受けながら、試行錯誤してやっていくしかありません。長いスパンで考えてください。
- ◆実際に、世田谷パブリックシアターで高校生のための演劇ワークショップを受けた生徒が、アルバイトとして入った後、シアターに職を得てワークショップを企画しています。
- ◆世田谷パブリックシアターで育成事業を行う上で良かった部分は、作品を創る現場がすぐ側にあるため、プロの活動を近くで見ながら学び、自らも実践できる場があったことです。
- ◆創作と育成の両方を同時に取組んでいくことが、長期的な意味でのホールの活性化に繋がります。

桑谷委員 ～地域や子どもに開かれた事業～

- ◆近年、公立劇場の役割に対しての考え方が、従来の「鑑賞する施設」から変わってきました。これからの公立文化施設は、教育・福祉について「生活文化の視点から公立文化施設にできること」を考えねばなりません。
- ◆座・高円寺では、「鑑賞」「育成」「普及」「地域活性」の4つを軸として事業展開を行っています。
- ◆事業を提案するには、理念、方針、計画に沿わなければなりません。座・高円寺の場合は「地域と劇場」を理念とし、「広場のような劇場」というコンセプトで、子どもから大人までもが楽しめる劇場を目指しています。
- ◆事業計画はあくまで「計画」であり紙に書かれたアイディアです。それを実現、成功させるのはスタッフ次第です。

【プロフィール】 市来 邦比古 氏

世田谷パブリックシアター前技術部長。昨年度の基本計画策定から引続き、管理運営計画専門委員を務める。演劇の音響プランナーとして40年以上の実績を積み一方、各地の劇場ホールづくりに専門委員、コンサルタントとして携わる。

桑谷 哲男 氏

杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」館長。昨年度の基本計画策定から引続き、管理運営計画専門委員を務める。舞台照明家としてスタートし、公立文化施設で舞台技術チーフ、テクニカルマネージャー、館長等を歴任。

ワークシートのふせん内容をご紹介します

皆さんのご意見はふせんに書込み、各班でワークシートにまとめました。

ここでは、皆さんのご意見を全てご紹介します。

1 班

【育成事業】ホール案内係の若者の育成(バイトとして成り立つ様)、文化サポーター(レセプショニスト)は主婦の方が多く時間的なこと、経験の差がありニーズにあわない時もある/ダンス部、演劇部等の学校の部活動から若い人たちが参加できること/文化をささえる人材(専門家、市民)の育成が必要、ワークショップ事業/催し物を行うための練習の場所(小学校など借りる等)、市民が使いやすいシステムをつくる/おだわらミュージックカレッジ、音楽リスナー講座、アート/舞台技術ライセンス制度 C 級中学生(野外コンサート)、B 級成人(ホールの補助)、A 級プロ(ホールが使える)/舞台技術カレッジ(スクール)、音響、照明、ディレクター/小田原芸術大学ができる方向でそだてる機能を高めていく/講義、ワークショップを大学、高校などとタイアップし単位とする/舞台技術テキストの発行/地域の小・中学校、高等学校との積極的な連携を行う/ホールオープンの 5 年後に高校演劇全国大会を小田原に招致する→それまでレベルアップのため、定期的なワークショップを行う→高校生が演劇好きになる→大人になって劇団をつくる→小田原の演劇人口が増える→全国の高校生があつまれば、まちのピーアールになる。まちづくりに貢献/小田原クールリスナー講座(評論の講座)

【鑑賞事業】小田原アコースティックライブ、一流アーティストに自然素材だけのコンサート、アート。アコースティック・ライブと提携/若い人が自分もやってみたいと思う気持ちになれるような鑑賞事業/地元のプロの音楽家達の出演による音楽祭の開催/定期的な「寄席」を開催(昔、小田原にも寄席があったそう…。かつて円生 etc も来た。若い落語ファンも少なくない…。)/映画の定期的上映。シネマトーク的展開。(シネコン的でなく)テーマをいくつか設定する。(「懐かしい名画」「音楽を聴く映画」etc)/専門委員会の委員の方々が関わる舞台、コンサート等のイベントの出張公演をレギュラー的に行う

【参加事業】小田原中学合同音楽祭(各校のコーラス上位クラス、ブラバンの発表会)/企業対抗アートフェスティバル(一位は減税)/全市、近市の小学校、中学校を一同にした文化祭を開催/市民会館友の会 ・演ずる側の友の会 ・受ける側の友の会 ・会費を取りインセンティブを与える→運営サポートになる

【地域発信事業】「おだわらものがたり」の創発(ベンクラブ、文学団体の協力)/小田原提携アートフェスタ、野外アート+造園+環境美学+ランドスケープ/西湘地域全体での「まつり」をつくる、あしがらアートフェスティバル+〇〇〇/ガーデニングコンクール/コンクール、コンテスト、コンペティション→参加者のモチベーション高める/「市民ホール」というスペースは、県西エリア(及び静岡東部)のアート、カルチャーの活動の中心である、という位置づけ。つまり、広くそれらの地域の人々を引き寄せるようなコンテンツを構築し発信/小田原の「文化的アーカイブ」を見たり聞いたりすることのできるライブラリースペース(レガシーを共有する)。但し、そのソフト自体には何がある?(その発掘、整備を行うのはとりえず「文化部」か?)/自分は地元小田原北条手作り甲冑隊のメンバーではありますが、この隊の宣伝、アピール性を高めるために HALL を利用して小田原城の歴史と文化を知らしめるイベントを企画し、小田原市全体のイメージアップをすすめたい/小田原ラフタークラブのメンバーであるので、笑いの効用を知らしめるためにホールでの活用を目指したい(ラフターヨガ・ジャパンの会員)

【交流事業】「歴史に向き合う」をテーマに(ビエンナーレ形式で)史跡での野外展示会を開催する/文化フォーラム、単なるパネルディスカッションではなく、会議的な機能も持たせる/自治会対抗芸能大会(一位に市より交付金)/自宅、本棚に眠っているプログラム、パンフレット等あつめ、資料室みたいなものを作る/この「市民ホール」は小田原の文化芸術の全ジャンルの情報センター、アーカイブ、ライブラリーとしての場所でありたい(ここでほぼ分かる、とか…)/市民会館だけでなく、小田原の文化活動の全てを集約した情報発信基地とする

【にぎわい創出】小田原の良い食材を使ったおいしい料理が提供できるカフェやレストラン事業/小田原でたくさんある「祭り」を整理して、発進力ある事業にまとめる。高円寺 4 大まつりのように/若者むけのオタク文化(アニメ、まんが、コスプレ等)のイベントがあってもよいのでは/小田原にアキバを/小田原「コミケ」/ふるさと大使の方にホールイベントに参加してもらう/稼働率を大ホール、小ホール、スタジオ各々について週末と週日で月毎に明確に表示する

【施設提供事業】小田原の公共施設での年 1 回以上のイベント義務化(施設スタッフのボーナスに反映)/ライブレコーディングが可能なホールとする(良質の音響環境とハードの充実)/市民ホールに集まるお客さんの行動、経済力 etc を考えると観光的な要素も出てくる→小田原のツーリズムの戦略の問題になる?/人をほめる、人をたたえる、新たな小田原文化を作っていく

3 班

【育成事業】【現在】将来のホールの担い手を育成するワークショップ/子供に向けた伝統芸能のワークショップ、アウトリーチ/小田原著名人のワークセミナー「小説家になるには」/映画業界に入るにはetc 学生対象/【開館】子供にとって…家ででも学校でもできない経験・体験をワークショップで!(スタジオ)/ホールで小学生の音楽教室を出来ないか?/将来を見据えて「二宮尊徳」の教訓を継承して、学習の催しを計画的に企画してほしい!/市民オペラ。

オケ・ソロはプロ、合唱は市民で開館時に出来るように/【短期】声優口演(サイレント映画に声をつける)を一般市民により台本からつくる/映像・映画のワークショップ、町や商店の CM 作りetc/【中長期】café をチャレンジショップとして数年で独立してもらう

【鑑賞事業】【現在】天幕上映会、天草上映会/ホールの技術者養成を今から始める/文連等、今活動している団体も子供向けに積極的にアウトリーチする/歌舞伎、管絃物/音楽、演劇の鑑賞の仕方を学ぼう。小学生向きワークショップ/楽器を楽しむ子供向けの音楽会/【開館】市民演奏団体の質の向上をはかる企画を/小田原文学の読み聞かせ→録音→バリアフリー書籍、電子書籍化/藍坊主の凱旋ライブ/市民による演奏会、音楽を身近に/30〜40 代が興味を持つ事業を企画する/県知事と共催で「歌の文化」の面で名曲「50 選〜100 選」を披露しあい地元の文化の発展に繋がたら?!/【短期】前庭での野外コンサート/年 1 回、ブラックタイ着用品の品格のあるガラコンサート/【中長期】兄弟館等のリンクを作り、巡回公演を企画

【参加事業】【現在】小田原囃子等おひろめ会、その他湯河原や箱根含め/バックステージツアー(親子で)公共施設探検!/【開館】「開館オープニング」にホール、お堀端通り、二の丸広場一体型の空間を楽しめる催し/美術のワークショップ。実制作の場、ミニ体験/【短期】コンセプトual 写真コンテスト、杉本博司

【地域発信事業】【現在】小田原各地区のアピールウォーク、戦争体験談、アーカイブ映像/【開館】「開館発表」郷土の偉人の二宮尊徳の教訓を歌に託した教訓歌、「二宮尊徳奉讃歌」作詞・作曲・歌 市川美都江(地元で活動)/「千人太鼓」元気の発信。プロ、アマ、市民が心ひとつに/【短期】小田原文学堂→シナリオ化→映像化→コンテンツツーリズム/歴史を学んで小田原のニューブランドの創造ワークショップ→商品化 etc

【交流事業】【現在】小田原城外大外郭を小学校の遠足で歩く、模型を作る/各々の特技を持った「芸の道」で地域住民の方々、老若男女が一同に結集して「親睦と交流の和」を持って楽しみ、生きがいを持ってもらう/【開館】市民サークルのグループ展(公共 PR 付き!)/林英哲盆踊り大会/友だちが増えるイベント(子供間交流)/子ども対象、大人対象ではなく、一緒に過ご一緒にワークショップをする企画、発表会がやりたい/【短期】小田原在住文化人リレートーク週間、作家、画家、音楽/失われていく伝承遊びやわらべ歌は公園からは広がらない今、舞台発表という場を使って残していきたい/【中長期】小田原につたわるお話を、子ども大人一緒に演じ、小田原を知るきっかけにしたい/絵画をプロジェクターで舞台に、その前で歌・音楽の芸術コラボレーションの企画

【にぎわい創出事業】【現在】酒博/ミュージックストリートを月 2 回開催する、回数を増やす/【開館】アートマート(井の頭公園で行われている)、夜市、白楽/街なか大道芸/【短期】アートフェス 今ある物にプラスし、空き店舗の利用や小田原以外の作家、企業、映像 etc/小田原城下町ランウェイ(和のファッションショー、その他、お化け)/【中長期】ガンダムフェス(ジオラマ展、ジオラマワークショップ、シンポジウム、原画展、イラスト展、クイズ大会、ゲーム大会)、コンテンツ事業/ゆるーい歴史のお祭り(イラスト展、コミケ etc)

【施設提供事業】【現在】春と秋に市の文化祭を分ける

【その他】大ホールの室の壁はなるべく木材を多くして/使用料の安定性、利用者側にたって「採算」の見合った使用料の算定成り立つように利用できるようにしたい!/めだかの学校、市役所にあるように市民ホール周辺の子どもたちに飼育してもらう/ネーミングライツ、市民ホールキャラ?によるコンテンツビジネス

2 班

【育成】子ども(段階的に)対象の鑑賞会(劇場でみること)/子どもたちに劇場マナーを長期的に教えていく/子ども対象のイベントをたくさん行って長期的に養成していく/・プロを育てる学校 ・プロなみを育てるコース ・趣味コース(既存の美術団体との関わり)/小中学生美術塾/学校の美術教科での見学会(授業の一貫)/アートマネージメント講座を常時開催して人材を育てる/大学生のボランティア、単位の対象とする/文化サポーターの育成と増員/小田原在住・出身の新進美術家の育成(制作、発表、助成金)/常設美術学校、休日型、平日型、夜間型/ジャンル別に各学校へ出張教室を行い、芸術文化に触れさせる

【参加】予算がないなら市民ボランティアの活用と参加/劇場・音楽堂事業に偏らない/館内の案内などボランティアで参加/身近なものを使って子どものアートづくり、ボール紙、紙 etc/車椅子でも参加できるイベント、たとえば音楽/ビジョン→市民参加→事業→運営の一貫性の確保/毎月 1 回子どもたちのコンサート

【地域発信】モノづくりという伝統工芸となってしまうが、新しい時代の小田原らしさの創造の小田原ブランド展/・定期発行情報紙 ・わかりやすいウェブサイト(きちんと更新)/ホールの中に芸術文化発信のスタジオをつくる/ホール美術展示の地域公民館への巡回/「小田原美術」誌の発行/地域の偉人の展示会/小田原ブランドの発信をギフトショー(ビックサイト)にて発信する/我が町内のお宝がし。町内に関心をもたせる

【交流】全館交流フェスティバル(バラバラに各施設が集まるのではなく、施設交流を企画すること)/市内ギャラリーの共同展(連携、それぞれが企画したものをまとめる)/既存(松永、清閑亭、文学館)施設との美術展ネットワーク/・地方への巡回展 ・地方からの巡回展(同レベル) ・国や県からの巡回展(上位)/このような人がいてこのようなことをしていった、そういう人物的イベントを/小田原国際音楽祭/城山、又は久野ミュージアム・トレインの設立とその拠点(出発・帰着)

【鑑賞】地域、小田原在住、小田原にかかわりのあるアーティストの展示会やコンサート/小田原にかかわる、又は在住するアーティストの展示会、コンサートを行う/子どもたちに本物の舞台芸術をみせる/世界的な奏者を呼ぶ。300 名を 2 回公演で。例:世界チャンピオン口笛コンサート/おだわら賞美術展/おだわら賞屋外彫刻展/おだわら賞モダンアート展/旧市内に映画館が無いので市民ホールで定期的に映画会を催してもらいたい/子どもの絵本を読む企画!アーティストにお願いする/箱根ジオパークは今年中に認定されると思いますが、一般的な知識を市民ホールで講座を聴いてもらいたい/視覚障がい、聴覚障がいのある方々への美術展示(解説やさわる展示など)/美術作品の収集と收藏。収蔵品の常設展示。/小田原在住、または出身の(一流)美術家の情報・作品収集/音楽、演劇、ダンス(舞踊)、寄席などの独演会

【にぎわい創出】市民ホールにまちなかつなぎの仕組み/外部のオープンスペース(十分に確保)でのオープンエア美術展/ホール前で地場産などのフリーマーケット/まちなか商店街の活性化(連携を計る)/ホール周辺で大道芸などパフォーマンス/美術や劇場目的でなくでも利用(安価にかつ気楽に)できるスペースまたは席/町の「まつり」との連携(年間計画で)/回遊ルート(観光客ばかりでなく)との一体化事業/子どものあそびば、つまりば

【施設提供】市民の利用優先(料金、予約…)/入場料の割引、年少者(特に無料など)、高齢者、障がい者/生涯学習センター、公民館との法的根拠の違い→制約や可能性があるか?/教えること!学べること!けやきとの関連は!/現在、キャンパス小田原(けやき)で小田原城物語の講座を開いているが、これをホールで取り扱ったらどうか(場所的な同類)

【バリアフリー(全てに共通)】点字ブロックの色は黄色にして下さい/視覚障がいの方のためのコンサート、昔流行した音楽など(50、60 年前に流行したもの)/トイレのバリアフリー/「オストメイト」(人工膀胱)の設置/障がい者用の駐車場の拡充/レストランや販売所の充実/視覚障がいの方々に届く広報/視覚障がいの方は外に出る機会がすくないので、そういう方が参加できるイベントの創出/視覚障がい者、緊急のことがあった場合、文字でお知らせできるシステム

【全般】既存事業の新ホールでの可能性の検討/「劇場・音楽堂」でかたまってしまった現状に対し、ハコにこだわらずに「事業」で文化拠点の使命を達してほしい/「ハコ」の外で行う事業も充実させる/いつの間にか「劇場・音楽堂」になってしまっている。ビジョンの理念の「拠点」機能をいまいちど思い出して展示系について同等に考えること/雇用創出(専属プロ、専属運営スタッフ、専属管理スタッフ)を確保(既得権にこだわらない)/けやき、マロニエ、いそしぎなどとのすみわけを明確に/文化振興法(ビジョンレベル)→劇場音楽堂活性化法(計画レベルで市民ホールはどのように関わる(規制される)か?)/既存市民会館利用(会議室や市民活動サポート…)はどうか→新ホールで?/「拠点」としての自主事業の充実(または招待や招聘)

【イベント(全項共通)】昔、おも城 OASIS というイベントを創造した。小田原の商店の参加(販売)と、小田原らしさ、ちょうちんの発想から小田原ちょうちんの作成(小田原市内の小学生)(現あかりの祭典として残る)、竿灯ねぶたの運行、市内各所での野毛の大道芸、小田原城内での骨董市やボートの再現 etc.ひとつの大きなイベントの小田原らしさの創造/(たとえチケットが高くても)一流アーティストやミュージシャンも定期的に呼ぶ/市民文化生活としてエコとか電力とか最先端のコンベンションの発想のイベント/情操性のある子どもとのふれあい企画

【美術館について】小田原に展示のできる場所はないということになる(ホールはギャラリー)。別に展示ということをしかりとしなければ。展示は神奈川県下では非常に素晴らしい人を輩出していることなので。このホールには学芸員等は存在するのか/小田原らしさ!展示館としてお蔵をつくったら。郷土文化館のような小田原地域にあったものと、現代のイベントを行うイベントホール

管理運営計画市民委員会 今後のスケジュール

開催日時		場 所	テーマ(予定)
シンポジウム (6／17) * 終了			
第 1 回 * 終了	7 月 22 日(日) 10:00～12:30	市役所 7F 大会議室	オリエンテーション 市民参加
第 2 回 * 終了	8 月 5 日(日) 10:00～12:30	市役所 7F 大会議室	事業計画
先進事例視察 (8 月 24 日) 神奈川芸術劇場 (KAAT) ・横浜市磯子区民文化センター杉田劇場			
第 3 回	9 月 9 日(日) 10:00～12:30	市役所 7F 大会議室	運営
第 4 回	10 月 21 日(日) 10:00～12:30	市役所 7F 大会議室	取りまとめ
市民委員と専門委員の意見交換会 (11 月予定)			



先進事例視察「施設運営の現場を見てみよう！！」

8 月 24 日、いずれも横浜市内にある「KAAT 神奈川芸術劇場」と「横浜市磯子区民文化センター杉田劇場」の視察を行い、市民委員 10 名（女性 3 名、男性 7 名）、市の事務局スタッフ等 7 名、その他の事務局スタッフ 2 名の合計 19 名が参加しました。

市民委員会で検討している文化施設の事業や運営の様子、市民参加のあり方を実際に見て歩き、どのような発見があったのでしょうか？

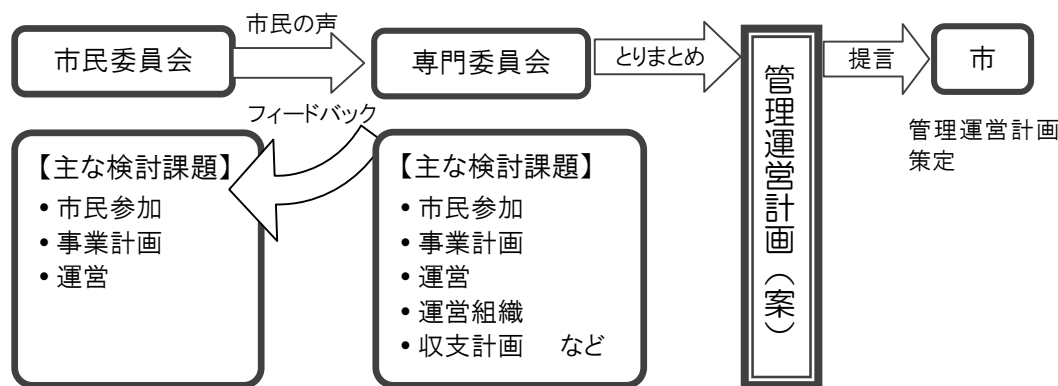
市民ホール管理運営計画市民委員会とは？

小田原市では現在、平成 28 年度の市民ホール完成に向けて、整備を進めており、これまで、平成 22 年度に基本構想、23 年度に基本計画を策定しました。

24 年度は、市民ホールを芸術文化創造の拠点とするための運営システム、事業計画及び市民参加のあり方等の方向性について定める、「市民ホール管理運営計画」を策定します。

管理運営計画の策定に当たっては、多くの市民の皆さんからご意見を伺い、管理運営計画の参考とするため、ワーキング形式の「市民委員会」を開催します。

市民委員会は、様々な立場や視点による市民の声を集約していく場とし、いただいたご意見は、文化施設や文化活動に関する専門家で構成される「専門委員会」でさらに検討を重ね、計画案として形にしていきます。



KAAT 神奈川芸術劇場

小田原市民になじみの薄い創造系機能の活用について具体的なイメージを膨らませるため、スタジオを見学し、利用状況や運営方法を支配人の蔭山陽太さんに解説していただきました。



開館日：平成 23 年 1 月 11 日
専有延床面積：約 18,600 m²（地上 10 階地下 1 階建複合施設の一部）
施設内容：ホール（可動約 1,200 席）、大スタジオ（405 m²）、中スタジオ・小スタジオ A（401 m²・可動間仕切りにより 251 m²・147 m²に分割可）、アトリエ（小スタジオ B）（149 m²）ほか
指定管理者：公益財団法人神奈川芸術文化財団

舞台芸術の専門劇場として、芸術の創造・人材の育成、賑わいの創出というテーマで運営しています。

- ◆KAAT は創造・発信をミッションとした、専門性の高い施設と位置づけています。スタジオはホールの舞台に準じる広さを備えており、ホール公演のリハーサルに使用できる一方で、スタジオでの公演も行われています。
- ◆大スタジオは稽古と公演をセットにした長期の貸出が中心です。また、中スタジオや小スタジオ A を使用する公演は年 5 演目程度で、稽古のための利用がほとんどです。
- ◆「良いものを創るためには NO と言わない」をポリシーとし、ホールとスタジオは基本的に床面への釘打ちやテープ貼付、砂・水の使用も可能としています。
- ◆施設利用の申し込みが重複した場合、抽選ではなく利用調整を行います。
- ◆ハード面では舞台芸術専門劇場としてフレキシブルに対応できる最新の機能と設備を備えている一方で、その設営には専門的な技術を持った人手と時間がかかります。
- ◆どのような運営方法がその地域に合うのかは、住民でないと分かりません。行政と民間とが一緒になって考えていくのがいちばん良いあり方ではないでしょうか。

横浜市磯子区民文化センター 杉田劇場

ホールがもたらす交流やにぎわいを体感するため、翌日（25 日）に開催される「杉田劇場夏まつり 2012」の準備の様子を杉劇地域文化アドバイザーの中村牧さんに案内していただきました。



開館日：平成 17 年 2 月 5 日
専有延床面積：約 3,000 m²（地上 30 階地下 1 階建複合施設のうち 1 階・4 階・7 階の各一部）
施設内容：ホール（318 席）、ギャラリー（113 m²）、リハーサル室（99 m²）、練習室（3 室）ほか
指定管理者：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団・有限会社アイコニクス・株式会社東急コミュニティー共同事業体

地域密着型の文化センターとして、様々な世代が集まり、楽しめる場所を目指しています。

- ◆横浜市内の区民文化センターでは、施設に親しんでもらうことを目的に、夏休みの時期に「オープンデー」を開催しています。杉田劇場ではテーマを「夏祭り」とし、誰でも参加できる文化祭のような催しを目指しています。
- ◆地域の施設において、キーワードとなるのはこどもと高齢者です。こどもと団塊世代以上の方々により結成され、出張演奏や地方への遠征を行っている「杉劇リコーダーズ」のメンバーの間には、家族のような関係ができています。
- ◆市民ボランティア組織として、施設内の装飾や公演のサポートなどを行う「杉劇@助っ人隊」があります。活動は無償で、定期的に交流の場を設けてメンバーから要望や提案を出してもらい、活動に反映させています。
- ◆地域に密着した施設となるため、町内会や商店街のほか、横浜市（区役所・市営交通・消防など）や警察とも良好な関係を築いています。
- ◆磯子区以外からも多くの方が来館しています。区民文化センターではありますが、区民だけでなく、杉田劇場が好きな人みんなに来てほしいという気持ちで運営しています。

小田原市・間瀬勝一芸術文化担当課長のミニレクチャーの内容をご紹介します

- ◆神奈川芸術劇場で行われている利用調整は、抽選によらないため不公平が生じることもあります。また、長期利用や床面への釘打ちは、作品づくりの場としては当然に必要ですが、演劇専門のホールだからできることです。市民が様々な目的で利用できるホールとする場合は、一定の制約が必要で、柔軟な運用をより重視してはなりません。
- ◆区民文化センターには「気軽に足を運べる場」と「特別なハレの場」の二面性がありますが、「夏祭り」は前者で、当日は施設内が様々な世代の人でごった返します。杉田劇場の運営は、「建物を管理する」というよりも「皆が楽しく過ごせる場所をつくる」という意識がベースになっています。
- ◆演劇専門のホールとして芸術の創造・発信に適した運営を行う神奈川芸術劇場と、区民文化センターとして誰もが気軽に足を運べる場所を目指す杉田劇場は、施設が目指す方向性としては両極端な例といえます。小田原の市民ホールではどちらの比重を大きくし、どのような施設を目指していくのかを考えなくてはなりません。

【間瀬 勝一 プロフィール】

1968 年藤沢市民会館に舞台技術者として入社。93 年（財）横浜市芸術文化振興財団に入社し、旭区「サンハート」、泉区「テアトルフォンテ」、栄区「リリスホール」、神奈川区「かなつくホール」、磯子区「杉田劇場」館長を歴任。2005 年逗子文化プラザホールの開館より運営に携わる。12 年より現職。10 年より（社）全国公立文化施設協会アドバイザー。

★★★参加した市民委員の皆さんの「ひとことアンケート」をご紹介します★★★

※たくさんのご感想をいただいたため、抜粋としています。

- ◆ どちらもスタッフが強いポリシーをもって進めているのが大きな力になっていると思いました。そのような人をどのように選ぶか、また市民や地域の組織とのつながりをどのように作るか、又は市民の中からそのような役割の人を育てていくかが課題だと思いました。ふたつの方向性が混ざらないように区分して進めるほうが良いかもしれません。
- ◆ やっぱ「人」だね！ 劇場もまちづくりも…杉田劇場を見て、そう実感！ 小田原でも、まちに生きる市民の「息づかい」や「体温（温もり）」が感じられる、一体感・熱気・パワーある劇場にしたいなあ～！
- ◆ ①神奈川芸術劇場は 10 階建てで市民ホールとちよっと建物環境が違うようですが、スタジオの色（黒）と操作盤等のことでは参考になった。②杉田劇場の祭りの企画が良いと思った。
- ◆ 運営の姿勢として、「一定のこだわりを持つのか（KAAT）」「何でもありなのか（杉田劇場）」、いずれの場合も、まずその地域性を重んじ、適確な目標・目的を定めることが重要であると、今さらながら感じました。

- ◆ とても参考になりました。
- ◆ KAAT と杉田劇場というまったく持ち味のちがうホールを見せて頂いて、ホール運営とは本気度の勝負、提供する内容の充実度だと再認識しました。ホールの個性をどうつくるか、難題ですね。
- ◆ 今日の視察は充実した一日でした。神奈川芸術劇場は斬新なアイディアで、素晴らしい一言でした。大ホール内の見学ができず残念でした。杉田劇場は庶民的で親しみやすい感じでした。財政厳しい中、生きた財の使い道をしたいですね。
- ◆ 今まで把握できていなかった「運営」の部分が随分明確になりました。「官」による一元的管理という時代前のイメージを一気に払拭し、官・民の融合の形態を実体験することができました。「百聞は一見にしかず」参加して良かったです。
- ◆ それぞれ特徴のあるホールで、目的を明確にすることの重要性を再認識いたしました。小田原にそれぞれの特徴を活かすことは重要ですが、その結果かえって中途半端なものになってしまうように気をつけなければならず、あらためて東京・横浜との距離感と小田原独自の文化の接点の構築が不可欠と痛感いたしました。

第 3 回「運営」～自分たちでルールを考えよう！～

9 月 9 日、小田原市の大会議室にて、第 3 回市民ホール管理運営計画市民委員会が行われました。第 3 回は市民委員 31 名、(女性 9 名、男性 22 名)、市の事務局スタッフ 12 名、その他の事務局スタッフ 3 名、市民ホール管理運営計画専門委員会から伊藤委員、勝又委員の合計 48 名が参加しました。昨年度に行われた市民ホール基本計画市民検討委員会から引続き、本年度は管理運営計画について、4 回にわたり市民の皆さんと検討を行います。

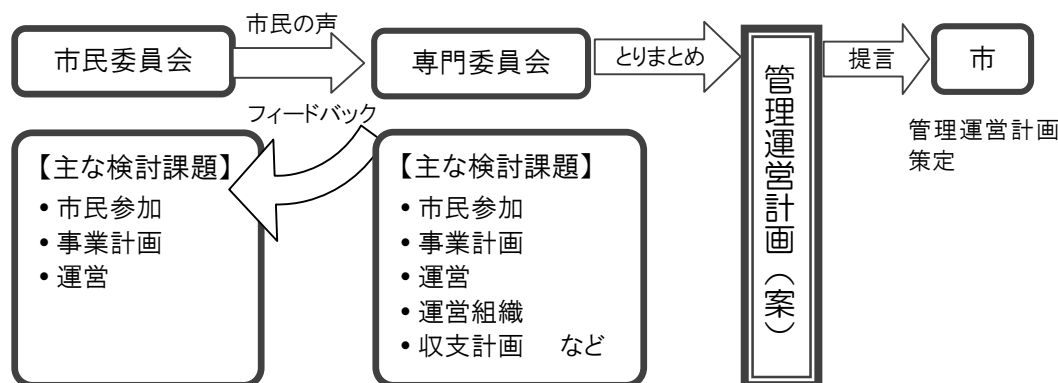
市民ホール管理運営計画市民委員会とは？

小田原市では現在、平成 28 年度の市民ホール完成に向けて、整備を進めており、これまで、平成 22 年度に基本構想、23 年度に基本計画の策定を行いました。

24 年度は、市民ホールを芸術文化創造の拠点とするための運営システム、事業計画及び市民参加のあり方等の方向性について定める、「市民ホール管理運営計画」を策定します。

管理運営計画の策定に当たっては、多くの市民の皆さんからご意見を伺い、管理運営計画の参考とするため、ワーキング形式の「市民委員会」を開催します。

市民委員会では様々な立場や視点による市民の声を集約していく場とし、いただいたご意見は、文化施設や文化活動に関する専門家で構成される「専門委員会」でさらに検討を重ね、計画案として形にしていきます。



市民ホールの 運営システムについて

今回は、市民ホールを運営していくシステムについて検討を行いました。

誰もが使いやすい市民ホールにするためにどのような運営システムが必要か、3 班に分かれて開館時間、利用申請方法、利用申請時期、使用料金設定、サービス、必要な専門性、市民協働などを中心に話し合いました。

また、今回は 4 班として障がい者の団体から 4 名に参加いただき、事前に 1 名からいただいたご意見も加え、施設の運営面を中心に様々な視点から検討を行いました。

1 班



施設予約方法や友の会、料金システムなど、「私たちのホール」を快適で公平に利用するための提案が多数あげられました。

- ◆ 基本利用時間を 9 時～22 時とし、料金を支払うことで延長利用可とする。
- ◆ ホールと練習室やリハーサル室の利用申請時期が違っていても、ホールとあわせて利用する場合には一緒に予約できるようなシステムが必要。
- ◆ ホールの利用回数に応じて貯めたポイントで優先的に利用予約ができるなど、お得感のあるサービスが欲しい。
- ◆ 利用の希望が集中する時期には調整委員会を設けるなど、誰もが公平に利用できるようにしなければならない。

2 班



誰もが来館しやすいサービスについて様々な立場からの意見がありました。また、専門家の必要性が強く求められました。

- ◆ 市民会館や既存施設の問題点などを参考に、システムを考えていくことが必要。
- ◆ 音楽・演劇・展示などジャンルが違う催しについては、一体的なルールではなくそれぞれに応じて対応する必要がある。
- ◆ 音楽・演劇・展示といった、それぞれの分野の専門家がいることが理想である。
- ◆ 専門家と、専門家の能力を高めていく館長の両者が必要。
- ◆ 現状では既得権のような先行予約が問題になっている。現行制度を見直すとともに、公平性を担保する必要がある。

3 班



「創造センター」としての役割を果たすための人員配置や、ルール外でも臨機応変に対応できる運営システムが望まれました。

- ◆ 創造センターとして機能するために、芸術監督や市民にアドバイスできる専門家、専門の技術スタッフなどが必要。
- ◆ スタジオやギャラリーは電気系統をホールと別にし、長時間の練習や利用ができるようにすることも、創造センターとしては必要ではないか。
- ◆ 基本的に料金の減免はしない。また、税金を投入して施設を運営していくことについて理解を求めるとともに、その必要性を訴えていかなければならない。
- ◆ 利用者の立場に応じて臨機応変に対応できる運営が求められる。

4 班



現状の問題点、望まれる施設計画やスタッフの対応など、利用者の立場からきめ細かな意見が多数あげられました。

- ◆ 介助者も席がきちんと確保できるよう、チケット割引システムがあると良い。
- ◆ 介助者に夜間の対応を求めることが難しいため、夜の公演は鑑賞しづらい。終演時間に配慮した公演も行ってほしい。
- ◆ 当日券や電話予約でも席を確保できると良い。観やすい席を自分で選びたい。
- ◆ 聴覚障がい者が緊急時に情報を把握できるよう、字幕での案内を行ってほしい。
- ◆ 手話を使った演劇や字幕映画など、障がい者団体が主催する事業も積極的に行ってほしい。障がい者が舞台に立てるようにしてほしい。

★★★専門委員ミニレクチャーの内容をご紹介します★★★

伊藤委員 ～神奈川県立音楽堂の運営～

- ◆ 施設運営にあたっては、安全、平等、事業と運営の質の担保、親切であることを常に念頭に置いています。
- ◆ 施設貸出のうち、一般利用については一年前に抽選で決定し、空き日はその後の先着順としています。県主催事業等については先行予約の規程がありますが、原則として減免はしていません。減免があるのは、指定管理者の主催・共催公演のみです。
- ◆ 開館日は年間 310 日程度で、このうち一般利用は 200 日弱、年間の利用料収入は 3,500 万円前後です。
- ◆ 諸規程を遵守しつつ、施設の制約の中で可能な限り手をかけて、皆が気持ち良く利用できるよう心がけています。

勝又委員 ～人にやさしい施設～

- ◆ ユニバーサルデザインの原則は、誰もが公平かつ自由に使用でき、使い方や必要な情報がすぐに分かることです。
- ◆ 現在ではバリアフリー法や条例などの法令があるため、物理的にはユニバーサルデザインに配慮した建物となることが前提となっています。
- ◆ 劇場は、段差が多く、勾配がきつい箇所もある特殊な空間です。上演中は真っ暗になる、不特定多数の人の出入りが集中するといった特性もあり、どうしても物理的に対応できない部分があります。適切なスタッフワークなど、ソフト面で対応していくことも重要です。

【プロフィール】

伊藤 由貴子 氏

神奈川県立音楽堂館長。朝日カルチャーセンター勤務を経て神奈川県立芸術文化財団。音楽を中心とした公演の企画・制作・広報等に携わる。

勝又 英明 氏

東京都市大学教授。劇場の建築計画を専門に研究。横須賀芸術劇場、東京国際フォーラム、いわき芸術文化交流館等の整備に参画。

* 両名とも昨年度の基本計画策定から引続き、管理運営計画専門委員を務める。

ワークシートのふせん内容をご紹介します

皆さんのご意見はふせんに書込み、各班でワークシートにまとめました。

ここでは、皆さんのご意見を全てをご紹介します。

1 班

【開館時間】9:00～22:00(延長あり)/ 9:00～21:00/朝と夜 1 時間位延長、朝 8 時～夜 10 時/基本時間 9:00～21:30、前後 1 時間の延長あり/楽屋のみの延長も認めてほしい！！/定期休館日をなくして利用できる日を増やす/9:00～22:00(延長あり)主催者は 10 分前に入場したい/他の参考施設の条件を参照しつつ適切に設定していく(他の項目も同じ)

【利用申請方法】電話申込、直接申込書に記入して申し込む/インターネット申請もできるようにする/電話・ネット・直接全てあり、本契約は直接で窓口はせめて 19:00 まで/インターネット、電話、直接/基本的に会場のオフィス窓口へ(営業時間内に)来て申込みをする(→抽選で決定する)

【申請時期】大ホール 12 ヶ月前、小ホール 6 ヶ月前、創造系 4 ヶ月前/12 ヶ月前で良いと思う/申込は 1 年前だが会館が空いていたら受け付けてくれるのか/申込期間は大ホール小ホール 12 ヶ月前、他 6 ヶ月前/12 ヶ月で良いと思う。早い者勝ちにならぬ工夫も必要だと思う。/本番にリハや仕込みも含めて連続で押さえられる(本番込みで 3 日?)/大ホールを押さえたら練習室も押さえられるように

【使用料金制度】午前、午後、夜間で料金が高くならないでほしい！！/ホール、リハーサル室、スタジオ等その室にふさわしい料金にしてほしい/午前・午後・夜間・一日。土・日・休日は利用が多いため割引が欲しい。/リハーサル室は 1,000 円～2,000 円。午前・午後・夜間の区分と時間貸しと両方/現在の料金よりあまり高くないように/一般市民の利用を広げる為にも、ランク別セット料金を設定する。Aセット、Bセット等、居酒屋システム一品追加あり。/原則有料。行政も同扱が原則とする。

【サービス】本番以外のリハーサルなどは照明、音響などが半額だと嬉しい/「友の会」向けサービス・特典(先行予約・割引)/ポイント制にしてそのポイントで優遇制度！！/連続使用したら料金がちょっと安くなる/ポイントを貯める(内訳?)/使用に関するメリット。2 月・8 月は安くする。水曜は安くする等。お試し価格…初めて使う団体は割引あり。終日使用、日数多いと割引あり etc のサービスを考える。/著名な公演を行う場合(全国公演の一つとか)は特例的にOK!とする/大ホールの入口に全館の催物のご案内があると良い

【必要な専門性】地方でもスタッフには本当の専門の方が来てほしい/舞台や照明などは専門家でなければできないが、簡単なことはボランティアが手伝えないか

【市民協働】チケットもぎり、パンフレット渡し、花束プレゼント、会場案内、受付業務、ステージサポーター等のボランティア業務/既存の市民団体の横断ネットワーク交流機能/正会員・準会員等を法人・個人を問わず広く、リーズナブルな会費で集める

【その他】杉田劇場のように地域密着型の「気軽に立ち寄れる」オープンな人の交流場づくり/市民への利用特典、(市民がつくる「おらが村ホール」)主体的になれるような/秋の文化祭に集中しないよう、市文連・市・使いたい人の三者が集まり調整委員会をつくる/本日の伊藤委員の説明は具体的な話であったが資料がないのは残念です。近隣施設の運営規則にも記載なし。県民ホールより、音楽堂の内容を記載すべきと考えます。/その施設(大ホール、小ホール、スタジオ、ギャラリーetc)で異なるであろう。(一般的な相場を参考にしながら)柔軟に対応する。/指定管理者の厳選(収入を上げられるところ)

3 班

【開館時間】基本的な運営の考え方:原則のルールはできるだけ具体的に決める。その他例外運用については委員会を設けて審議。(自由裁量が多すぎると混乱する)/スタッフの利用時間は終日/フレキシブルに対応(劇場・ホールの特性をよく考えて)/ 9 時～22 時/創造センター機能を重視するならスタジオの利用時間には制限を設けない/ 9 時～22 時、場合により延長可能な配慮/開館時間を複数設定できる物理的ゾーンニング/展示系についても 21 時～22 時など、公演系とあわせる/開館時間は 9 時～22 時とし、それ以外については特別料金(運営を考えると充分ペイする費用設定)/規定時間外は追加料金

【利用申請方法】ネットで空き情報開示、申込みは窓口で/インターネットの申込みは便利/利用申込みは現在の「公共施設予約システム」を利用できるようにする/優先利用(先行予約)は抽選時に公表する/先行予約は全市民のためという大義名分で抵抗できない/芸術性の高さとは何か?柔軟性や優先利用の根拠は?/抽選が良いが、今の抽選方法(コンピュータや時期)を見直すべき/抽選時に優先利用者の基準を明確に/特例・例外を考える検討組織が必要

【申請時期】一年前から申込受付/相談のみで受付できる体制(簡単な文書)

【使用料金設定】使用料金減免なし(あまりしない)/文化祭は 1 ヶ月程度にして、減免措置ありとする。それ以外は利用申請も抽選、基本的に減免なしとする。/減免規定は設けない(力・声の大きい者が有利になるだけ)/展示系は経費が相対的に少ないと思われる。公演系の基準を適用しない。/サービスとコストのバランスを考えた方がいい/展示(ギャラリー)の場合、民業(民間のギャラリー)圧迫にならないか

【サービス】インフォメーションシステムの充実:催事広報システムを対外的に如何に発信し、伝播するのか?(フライヤーの置き場・配布方法)/サービス水準は市民レベルなのでことさら高水準にしない(身の丈で)/ホールを借りる際にこうしたらもっと良くなる等アイディアがもらえるように/駐車場は無料又は低額で(小田原の特殊事情:駐輪場は一般や観光客で排除されてしまう)/LD 対応のバリアフリー(表示など)/クロークがあると便利

【必要な専門性】オリジナル作品を制作できるような専門スタッフの配置/コンサートプロデュースアシスタント/芸術監督(音楽重視)を置く/専門家は全て市民(個人・企業)から/部門別、市民専用運営スタッフ(ボランティアを雇用か)/エキスパートスタッフ(分野制)のプール/事務方と創造スタッフの権限設定/アート系の企画ができる専門スタッフ/年間を通して利用率を上げる企画力/技術専門スタッフにプロパー+外部委託を/運営スタッフ・技術スタッフには専門家を配置、役所の人間は置かない

【市民協働】市民協働のあり方としての雇用? 協力できるボランティアスタッフを募集→有償にする or 協力に見合ったポイントを付けチケット代に還元できる/多くの市民が得意分野を活かして参画できる市民スタッフ組織がほしい/運営体制 部門制専門・市民委員一定期的、一般市民・学校(児童生徒)→年 2 回くらい(ある種の委員会)/運営組織には専門家だけでなく、情熱ある市民を数人入れる/レセプション、表方スタッフは市民でもできる(一定期間のトレーニング)/友の会・部会制/協働 ボランティアの善意に頼らない(対価のシステムを)

【その他】ルールの順応的設定/利用のルール→最終的には芸術監督の良識を信頼、任せられる人物を/ルールのレベル化:芸術監督の良識レベル、委員会などでの審議レベル、単純な注文などのレベル/全てボランティア(企画から現場まで)、なければ全て有償で雇用(雇用創出)/雇用者とボランティアの立場を明らかに(雇用者がボランティアを使うことのないように)/けやき、マロニエとの協力事業、情報共有できる組織・人材/市内(西湘)に指定管理者にふさわしい文化芸術のノウハウのある団体があるか。ホールのための管理団体を組織化するか。民間は望ましくない。/現会館の運営システムを基本にして見直していく。又、逆に要望を組み入れていく。→相対的論として

2 班

【開館時間・受付時間】9:00～22:00/休館日:年末年始 12 月 29 日～1 月 3 日+臨時休館/受付開始～終了の時間を周知させる(例 8 時～20 時)/ホール施設の利用時間例(9 時～22 時)

【利用申請方法】利用可能日・時間をネット上で把握でき、利用申込に関する処理をその時にできないか/予約関係、システム(電子・出向き受付)、開始時期、抽選方法(システムと絡む)、優先順位(興行・アマチュア・市の事業)/秋に集中している文化祭事業を見直してほしい/公平に、平等に/展示系は連続利用規制なし

【申請時期】ホール系:大ホール、小ホール 1 年前より/展示:14 ヶ月前(国際的な大規模な催しは 24 ヶ月前)/キャンセルは何日前まで可能か

【使用料金設置】椅子の数、入場者数からの料金設定/現在の減免を継続して(減免範囲、団体をキッチリとする)。公共ホールは公金の投入は当然！！いくら出せるかが利用率にハネ返る。/公立・私立にかかわらず学校の使用は料金の減免を考える/減免の対象と基準を明確にし、採算性のある運営を行う/運営が苦しくない料金を、年間予算を考えて/シーズン料金、時期による割増割安/入場料金によって使用料金を変える根拠はあるのか?

【サービス】チケットの販売を。レセプションистを運営して！ スタッフとの打合せをしっかりと。チラシ、ポスター、看板作成のアドバイスを/ボランティアスタッフが運営に関わるとしても、徹底した避難誘導訓練がされていること/子ども用補助便座をトイレの半数以上に設ける(若い層が来館しやすいムードをつくる)/各外国語通訳ボランティアスタッフの登録/付属機器の料金を明確に示す(表を掲示)/窓口への申請時の駐車スペースの確保。出演者と来場者の駐車スペースの区分。/市の協賛をとっているイベントのチケットマージンはできれば取らないでほしい/駅にチケットスポットを置いてほしい/アートマネージメントワークショップの定期化/何かやりたい人への各団体へのつなぎ/イベントカレンダー。市・民・協会の区別なく。

【必要な専門性】展示系機能(ギャラリー)に美術系学芸員を置く/年間を通して/自主企画の開催、美術館クラスの展示会、ワークショップ(夏休みは子ども向け)/松永記念館との連携が必要(学芸員がいる)。松永記念館は美術館的な活用をしていく方針であるが、展示スペースが狭い。新ホールのギャラリーを活用したい。/専門的アドバイスができるスタッフが必須/会館専門スタッフと各公演参加者の周知。公演始めの全体挨拶など。

【市民協働】レセプションистの育成→学校での実習活動とか/ボランティアレセプションистの利用条件の明確化

【その他】運営方法。直営か指定管理者か。“館長”の設置の検討。/若い人の意見が欲しいので会議に参加してほしい/キャンセル時期と料金の設定/権力者による特権乱用の禁止/一公演と連続使用日数(ホールと展示)/公演時の関連品の販売の検討(現在は営業販売は不可)/入場料金の上限は設定しない/運営のトップにどんな人を配置するか(文化芸術に通じた人を!)/レストラン、café をチャレンジショップとして 2 年ないし 3 年で交換。その後は県西部で独立開業してもらう。

4 班

■管理運営 【事業】手話を使った演劇や字幕上映会等のイベントをたくさんやってほしい/障がい者によるイベントをたくさんやってほしい/夜公演(22 時以降終演)だと介助者のサービス時間外になってしまう

【組織体制】窓口に「筆談で対応します」「手話で対応します」といった表示があると良い/手話のできる人がいると良い、要約筆記があると良い/手話は基本としてできるほうが良い/窓口の職員は手話講習会等に参加し手話を覚えてほしい(手話での対応ができない場合は筆談器を設置)

【運営】窓口に呼出ボタンを付けてほしい/パンフレット(チラシ)などに親子席などがあるといった案内があると良い/障がい者のための予約ホットラインが欲しい/当日券では入りにくい。場所がない。/電話問い合わせ時に言語障がい者と気付いてもらえない(酔っていると勘違いされる)

【その他】何でも気軽に聞ける、頼める体制づくり/何かあった時(災害のほか急病やトイレの用等にも)の介助スタッフを置いて！！ 特別なスタッフでなく普通のスタッフが当たり前にできるように！

■施設・設備 【字幕&案内】字幕は映画会社がつけないでと言う場合もある/案内・連絡を表示してほしい(電光掲示板など)/字幕は左右両方に、手持ちだと見づらい(聴覚)

【席】席が選べない。車椅子の人は電話での予約を指示されるが電話がつかまらない。/「こういう席の用意もあります」選べる環境/地面埋込式の装置から補助器に情報が伝わるシステムがある/聴覚障がい者ボディソニックのような設備がある(藤沢市に参考例)/付き添いの人の席の取扱い→席割りの配慮/茅ヶ崎文化会館には車椅子席がない。BOX にすると介助者が居る所(横)がない。通路側一列を使用/端っここの席は車椅子から乗り移れるように/演奏が振動で伝わる装置がある座席

【段差】食堂カフェなどの入口の段差はなくてほしい/車椅子でなくとも段差は辛い。スロープの通路を。

【緊急時など】聴覚障がい者に緊急時を知らせるテロップ・電光掲示板/救護室を設置してほしい/エレベーターやトイレに聴覚障がい者専用の常時呼出ボタンを付けてほしい

■総合 【全体】どこにも負けないバリアフリーの施設/新しいタイプの障がいへの対応検討を/市外から来る視覚障がい者も利用しやすく満足できる施設

管理運営計画市民委員会 今後のスケジュール

開催日時		場 所	テーマ(予定)
シンポジウム (6/17) * 終了			
第 1 回 * 終了	7 月 22 日(日) 10:00～12:30	市役所 7F 大会議室	オリエンテーション 市民参加
第 2 回 * 終了	8 月 5 日(日) 10:00～12:30	市役所 7F 大会議室	事業計画
先進事例視察 (8 月 24 日) * 終了 神奈川芸術劇場 (KAAT) ・横浜市磯子区民文化センター杉田劇場			
第 3 回 * 終了	9 月 9 日(日) 10:00～12:30	市役所 7F 大会議室	運営
第 4 回	10 月 21 日(日) 10:00～12:30	市役所 7F 大会議室	取りまとめ
11 月 25 日(日) 市民委員と専門委員の意見交換会			

第 4 回「とりまとめ」～今までのまとめと、これからのこと～

10 月 21 日、小田原市の大会議室にて、第 4 回市民ホール管理運営計画市民委員会が行われました。第 4 回は市民委員 27 名、(女性 7 名、男性 20 名)、市の事務局スタッフ 11 名、その他の事務局スタッフ 3 名、専門委員会から桧森委員の合計 42 名が参加しました。管理運営計画市民委員会の最終回として、今までの議論の中で足りなかったことや、より強く実現したいこと、これからの活動についての議論を行いました。

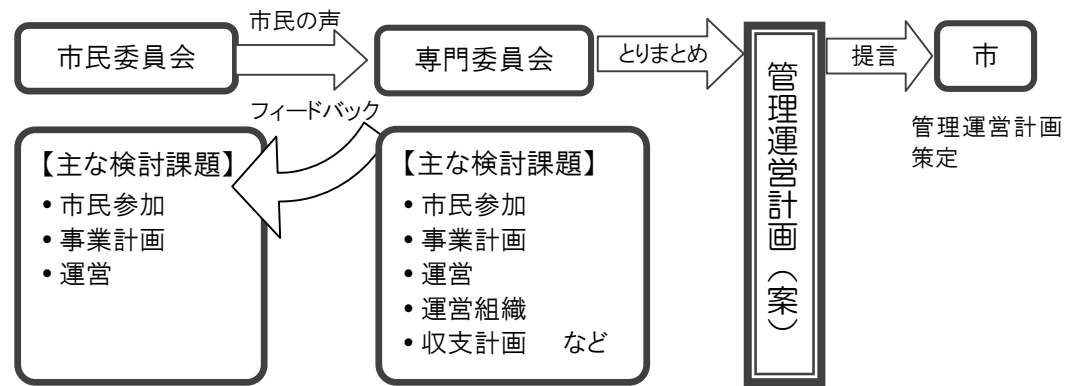
市民ホール管理運営計画市民委員会とは？

小田原市では現在、平成 28 年度の市民ホール完成に向けて、整備を進めており、これまで、平成 22 年度に基本構想、23 年度に基本計画の策定を行いました。

24 年度は、市民ホールを芸術文化創造の拠点とするための運営システム、事業計画及び市民参加のあり方等の方向性について定める、「市民ホール管理運営計画」を策定します。

管理運営計画の策定に当たっては、多くの市民の皆さんからご意見を伺い、管理運営計画の参考とするため、ワーキング形式の「市民委員会」を開催します。

市民委員会では様々な立場や視点による市民の声を集約していく場とし、いただいたご意見は、文化施設や文化活動に関する専門家で構成される「専門委員会」でさらに検討を重ね、計画案として形にしていきます。



市民ホール管理運営計画 今後の予定について

今後は 11 月 25 日の意見交換会にて「管理運営計画(骨子案)」を提示し、その後、市民意見と専門委員会での検討を踏まえて、「管理運営計画(案)」の策定をおこないます。

また、来年度以降も、より具体的な検討をおこなっていきます。

管理運営計画
専門委員会
(第 1 回～第 4 回)

管理運営計画
市民委員会
(全 4 回)

管理運営計画
意見交換会
(市民委員と専門委員
の意見交換会)

管理運営計画
(骨子案)の提示

管理運営計画
専門委員会
(第 5 回)

市民意見募集
(パブリックコメント)

管理運営計画
策 定

25 年度
以降の
検討へ

発表概要

1 班



市民が利用したい時に利用できるよう現行のシステムや事業を見直すこと、若い人の参画を促進していくことが求められました。

- ◆ 小田原市民だけでなく、市外の人にも来たいと思えるようなホールを目指す。中長期的に考えて、観客が呼べる催しや人材を育成できる環境を意識的につくっていく。
- ◆ 市民が利用したい時に利用できる仕組みをつくる必要がある。そのために、文化祭など現行事業の見直しを行わなければならない。
- ◆ 若い人たちが利用したくなる制度(専門的な指導等)を設ける。
- ◆ ボランティアについては慎重な検討が必要。

2 班



市民が自主的に組織をつくって関わりを継続していくこと、行政と市民が連携し共に進んでいくことが求められました。

- ◆ 現在は行政が市民を集めているが、市民同士での組織化はされていない。今後は、市民同士で連携していくが必要になる。
- ◆ 市民コーディネーターが各部会と行政をつないでいく。そのためには、まず行政の組織がしっかりすること、市民組織と連携をとっていくことが必要。
- ◆ 市民がホールや事業を評価できる仕組みを、ソーシャルネットワークなども含めて考える。
- ◆ 子ども達を対象とした事業などで、ホールを支える若い人を育てていく。

3 班



行政やホールが組織をつくり市民が参加していくこと、参加・活動できる市民を発掘していくことが求められました。

- ◆ レセプションистや記録・録音などを行う市民ボランティアを、市やホールが集めて組織化する。
- ◆ ボランティアや表現者などを発掘してくる組織が必要。
- ◆ 市民がモニタリング等を行ってホールや事業を評価し、共有するシステムがあると良い。
- ◆ 自主事業のプログラムは、市・市民・専門家により構成される委員会で決める。
- ◆ 市内既存施設や市外施設との連携を視野に入れた事業計画を練っていくべき。

★★★桧森専門委員ミニレクチャーの内容をご紹介します★★★

～市民参加の意義とは～

- ◆ 市民委員の皆さんには、これまでの委員会でたくさんの議論を積み重ねていただきました。異なる意見がぶつかることもあったと思いますが、皆で話し合い、互いの意見を尊重しながらひとつの方向性へと取りまとめていくというプロセス自体が、非常に大切なことなのです。
- ◆ 今年 9 月に、新潟県で行われている越後妻有「大地の芸術祭」に行きました。この芸術祭には「こへび隊」というサポート組織があります。「こへび隊」は、世代・ジャンル・地域を越えた市民の自主的な集まりで、芸術祭の運営補助のほか、参加アーティストと地元の人たちを結びつけ、さらには地元の人同士の交流を促す役割も担っています。市民が芸術祭の目的を共有し、実現のために心をひとつにすることで、このような自発的なボランティア活動ができるのだと感じました。

- ◆ 各ホールが取り組んでいる「市民参加」には、公演等の鑑賞者としての参加、市民による公演等の参加型事業やワークショップ等の体験型事業への参加、レセプションистや託児といったホール運営への参加、事業の企画・制作への参加など、様々な形態があります。
- ◆ 管理運営計画は、市民の皆さんがホールをどのように使っていくかを決めるものです。今年度は設計者の選定も行われており、来年度以降はこの設計者とともに、基本計画や管理運営計画を踏まえて基本設計の検討をおこなっていきます。
- ◆ 今後の検討においても、市民の皆さんに参加いただく場面があると思います。その際には、「事業を主催する側」「お客様をお迎えして接客する側」というホール側の視点も考えながら、議論を行っていただきたいと思います。

【プロフィール】 桧森 隆一 氏

嘉悦大学副学長。ヤマハ株式会社音楽企画制作室室長として、約 15 年間にわたり自治体や公立文化ホールが主催するコンサート、音楽イベントの企画制作・プロデュース、企業の地域文化貢献活動等に携わった後、2008 年 4 月より現職。文化政策、アートマネジメント、NPO 論、行政経営等を幅広く研究。昨年度の基本計画策定から引き続き、管理運営計画専門委員を務める。

ワークシートのふせん内容をご紹介します

皆さんのご意見はふせんに書込み、各班でワークシートにまとめました。
ここでは、皆さんのご意見を全てご紹介します。

1 班

【市民参加】

若い世代に演奏する機会を提供する/ボランティアとは？→無理はしない、(有形の)対価を期待しない、ただし無償の対価！(やりがい)/運営+市民参加、ほんとに一般市民だけの運営委員会をつくる(専門家の無償アドバイザー)/若い方の参加を/アーティスト(有償)を支える無償ボランティア…矛盾はないのか/運営の拠点として、若人・学校・勤め人・中高年など各層向けのプログラムをつくる/有償のボランティアを考えなくては。「運営」である！/若い方を動員する！スカウトして参加していただく

【事業】

ホール自体がアミューズメント的性格をもっと持つべきである/地域の歴史を取り込んだ事業を考える/演劇や映画のときに背景・衣裳等の説明が欲しい。イヤホン等で聞けるとより楽しめる。/若い人を呼び込める事業が必要！/若い人、グループが低廉又は無料で公演できる仕組み/文化芸術の魅力を伝える、広げる工夫を重ねる！/人材育成の仕組みを持つこと/若い人たちの活動を支援・指導する仕組み

【運営】

身近に市民が楽しめる“場”の提供/年に一度でも、若い人、若い力を目覚めさせる活動を/若い人の育成→新しいホールを担う/若い音楽家に「場」を与えたい/若い人が利用したくなる制度を設ける。ホール使用の枠。スタッフによる専門的な指導体制。/演劇鑑賞協会のようなものをつくり、定期的に演劇がみられるようにしたい。/小学校・保育園など、子どもたちのところへアウトリーチをして、必ずホールへ結びつける/拠点として改めて若い人、学校、勤め人、高齢者の声を聞く計画/市民がホールを使用したいと思ったときにそれが確実に実現できる仕組みづくりが必要/市民文化祭短縮すればその分枠が空く。文化祭のあり方、ホール使用料の再考。/お客さんと呼べる演劇団体、音楽団体を育てる。専門家がワークショップをやり、人材を育てることが必要。→創造系のホール/広報・PRを強化(新しい手法を)/催し物に責任あるディレクターを市側で3、4名準備しておく和良好的/「ディレクター」「受け皿」行政が用意を！/次代に応じた運営を行う！/優秀な人材を集める！/人材を育てられるスタッフを早く雇用することが必要。中・長期的な戦略を持ってやらないと。/25年度に、学校や若いグループ(個人)向け広報の予算/文連の今後のあり方を一度ガッツと話し合うべき/「鑑賞組織」としての市民参加の仕方もある(桧森委員から)

【その他】

現に活動している美術グループ、音楽グループにヒアリングする。公的・半公的事例だけでは半分。/障がい者の車が予約なしで駐車できるように！/まず文連と市で文化祭のあり方をきちんと議論してください。その後市民を入れてください。/小田原でも都内並にお金を取れる魅力的なホールが欲しい/車椅子 25 台。高齢化社会を認めてほしい。/どんなホールになるのか分からないと議論できない/東京駅が人を呼んでいるように、小田原は木を象徴的に使ったホールにすれば市民が誇れるものになる/若い人のサポートが必要/実際に事業をやる人でないとわからない/設計仕様書は市議会に提供(公用)すべきと考えます。あまりに不勉強！/Hall の Hard 姿が見えていない。大変なこと。/専門委員会の答申(正式)は出るのか/設計(仕様)にどこまで市民委員会、専門委員会の論議が反映される？/市役所の仕事のペースは街に比べて遅すぎ。前案廃止後2年で造ってほしかった。

3 班

【市民参加】

市民スタッフ募集、プロはボランティア参加/“自主事業”にはホール側と市民参加のしっかりとした組織を立ち上げる！年間の企画の作成をそれぞれ市民参加で/審議委員として市の方針決定に参画していく/市民等による企画をプレゼンできる、参加させる仕組みの組織/行われた行事の評価を行う市民組織/新事業を立ち上げるメンバー組織/表方の支援グループ。レセプションист、アーカイブ、介助 etc/市民参加のきっかけとなるワークショップが必要/文化の中間支援、ボランティアの育成/手話などの福祉ボランティア/写真・映像での記録ボランティア、録音ボランティア、美術会場整備ボランティア/文化に興味があり、参加したい市民をいかに集めるか/宣伝や制作支援などの応援団(会員制)、アート NPO?に参加/舞台技術以外の裏方(例えば楽屋待ち、ケータリング etc)/音楽祭・演劇祭等、大規模な事業の受付、案内、PR、救護、ケータリング、介助等への参加

【事業】

演目(劇・音楽)の内容の解説を当日開演前にホール又は別室でレクチャーできる組織を立ち上げると、文化の普及につながると思う！/(発信できる)質の高い公演事業が必要/開館記念事業は展示ホールにて井上三綱展(平塚美術館に協力を依頼)/アウトリーチ事業実施とコーディネーターの育成(市民で経験者を募る)

【運営】

運営組織が必要/団体間・組織間をつなぐコーディネーター(市？個人？ホール？)/制作補助スタッフとしての参加(育成に5年以上)/地元合唱団と外国音楽団体との交流事業のお手伝い/市民(利用者)へアドバイスできる人材の活用/観客と舞台側の中間に立つ、コーディネーター的な人間が中心となる市民組織を作る。他地域のイベントをもコーディネートできる人材、組織もあれば良いと思う。

2 班

【市民参加】

事業案の公募制と委員会による事業化/包括的な市民組織と部会制/市民組織の中の市民間のネットワークと行政とがつながる/この市民委員が発展する形で、実際の「事業・管理・運営」に市民も入った組織ができるのであろうか？/この「市民委員会」は今後も続いて開かれるのであろうか？(行政についてのメリットの問題？)/進化できる市民組織(市民協働の強化とともに)/意見を言える場を今後も継続したい/今ここに集まっているメンバーなどが今後も話し合える組織を作ろう/市民一人一人が受身から企画参加する側へと意識を変えていく/託児、イベント実施など、それぞれが得意分野を活かした関わり方が考えられる/市民が企画に参加できる仕組みづくり/市民力はある意味反専門家主義/参加しなくては意見は通らないということアピール/市民による評論組織/市民ホールの現在の市民委員の何らかの形態の継続/事業評価が継続的にできる市民参加組織

【事業】

自主事業と貸館事業の割り振りを固定化せず、それを決める方法をルール化/気軽に参加できる事業/料金(公演)、観たい人を増やすためのきっかけをつくる/小田原に根ざしたイベント/せっかくなので、わくわくできる魅力的なコンテンツを発信できるか？そのためには何をどうする…？/市民ホール友の会→行政補助も考える。全体の会費+好みのジャンルの会費→個々の総計として友の会費/西湘(含む箱根)全体の中での位置づけを整理して、その中での小田原市民ホールの差別化/西湘(含む箱根)全体のイベントの一括管理(情報告知)の機能を/ホールの大きさではなく質を求めるホールへ/各イベント、各事業のターゲットは？各主催者のマインド次第？プロモーションをどう考えるか？要検討の課題ですね

【運営】

休館日はあえて定めずイベントに応じて適宜/オンブズマン組織は必要/減免どうするか/経営的マインドも必要であろう。使用してもらうのを営業する(売る)こともそれなりに行うほうがいい。

【その他】

ビジョン:市民の憧れ、目標となるような施設/音響を重視したホール/ハードはソフトに従うとのこと。建物の内部のデザイン(音響の良さ、バリアフリー、アクセスしやすさ、トイレ etc)も重要だが、外観デザインもそれなりのクオリティは必要である。

管理運営計画市民委員会 今後のスケジュール

開催日時		場 所	テーマ(予定)
シンポジウム (6/17) * 終了			
第 1 回 * 終了	7 月 22 日(日) 10:00～12:30	市役所 7F 大会議室	オリエンテーション 市民参加
第 2 回 * 終了	8 月 5 日(日) 10:00～12:30	市役所 7F 大会議室	事業計画
先進事例視察 (8 月 24 日) 神奈川芸術劇場 (KAAT) ・横浜市磯子区民文化センター杉田劇場			
第 3 回 * 終了	9 月 9 日(日) 10:00～12:30	市役所 7F 大会議室	運営
第 4 回 * 終了	10 月 21 日(日) 10:00～12:30	市役所 7F 大会議室	取りまとめ
市民委員と専門委員の意見交換会 (11 月 25 日)			

管理運営計画意見交換会 スケジュール

(市民委員と専門委員の意見交換会)

開催日時	11 月 25 日(日) 14:00～16:30
場所	市役所 7F 大会議室
出席者	◆専門委員(桧森委員長、桑谷副委員長、伊藤委員、市来委員、勝又委員、三ツ山委員) ◆市民委員の皆さん
内容 (予定)	◆オリエンテーション ◆専門委員によるミニレクチャー「骨子案について」 ◆市民委員と専門委員との意見交換 など

◎市民委員以外の方々も傍聴できます。ぜひご参加ください。◎

市民ホール管理運営計画市民委員会意見集

平成 24 年 11 月

小田原市文化部文化政策課

〒250-8555

神奈川県小田原市荻窪 300 番地

電話 0465 (33) 1702